

大阪医科薬科大学医学教育カリキュラム評価

2020 年度 報告書

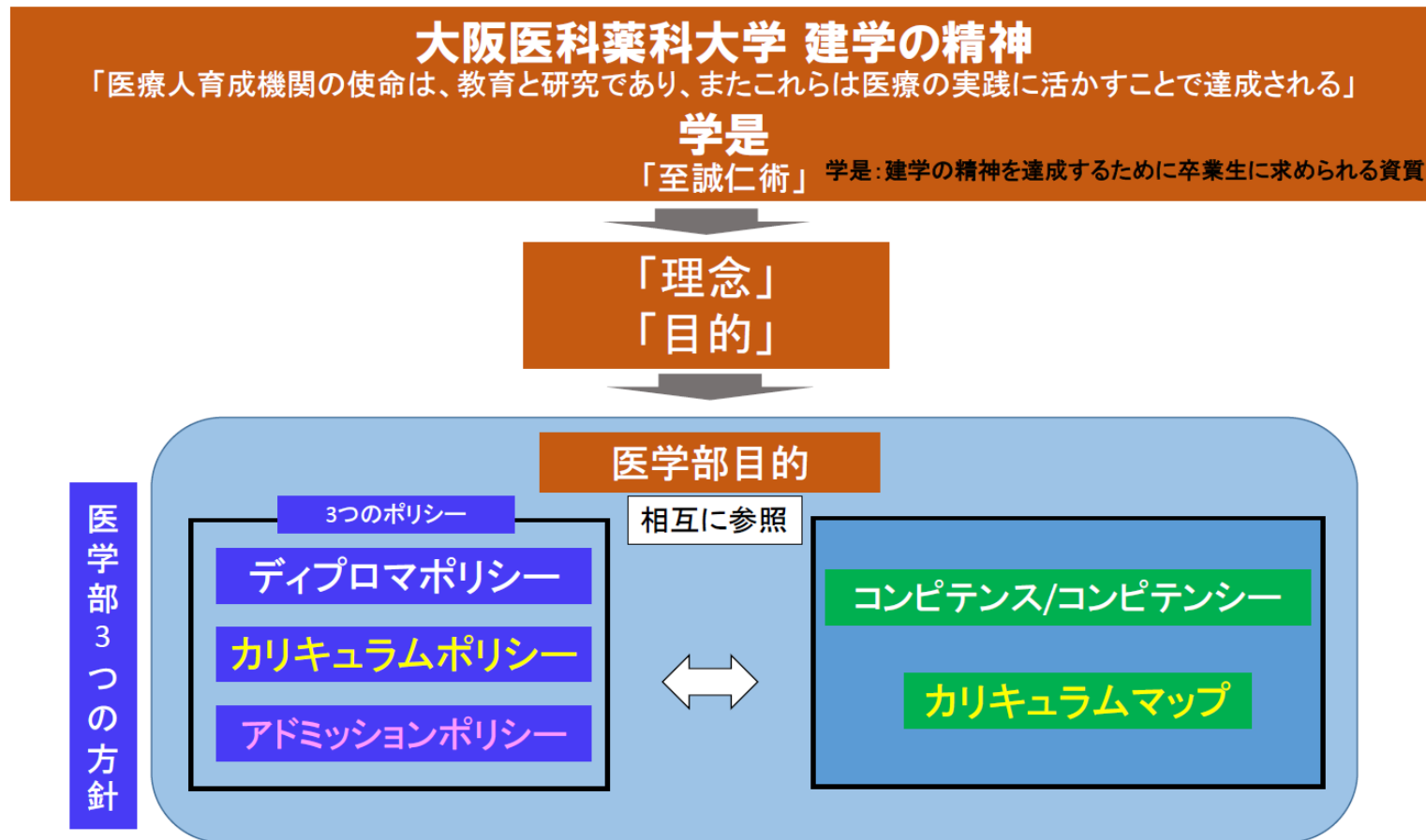
(アセスメントポリシーを踏まえたカリキュラム評価)

大阪医科薬科大学医学教育センター

アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

大阪医科薬科大学 医学部では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価します。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行います。

アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント」を確立させ、不断の教育改善に取り組みます。



【医学部アセスメントポリシー（評価の方針）】

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	アドミッションポリシーを満たす人材か アドミッションポリシーの妥当性	カリキュラムポリシーに則った学修が進められているか カリキュラムポリシーの妥当性 アドミッションポリシーの妥当性	ディプロマポリシーを満たす人材になったか ディプロマポリシーの妥当性 カリキュラムポリシーの妥当性 アドミッションポリシーの妥当性
機関レベル		<ul style="list-style-type: none"> 進級率、休学率、退学率 学勢調査 正課外活動状況（短期留学、クラブ、ボランティア等） ポートフォリオ 	【卒業時】 <ul style="list-style-type: none"> 卒業時アンケート（学勢調査） 国家試験合格率（医・保・助・看） 研修先一覧（マッチング結果：医学部） 就職率／進学率（看護学部） 【卒業後】 <ul style="list-style-type: none"> 卒業生アンケート 卒業生就職先／勤務先へのアンケート
課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学時調査 入試制度評価 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査） 進級率、休学率、退学率 学年総合試験成績 共用試験成績 ポートフォリオ 入試制度別成績、態度 各科目評価（講義・演習・実習）…出席、試験成績、レポート、ポートフォリオ、語学アセスメントテスト成績等 授業評価アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業要件：修得単位数 資格取得：国家試験合格率 GPA（通算） 進級率、休学率、退学率、ストレート率 就職率 学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査） 入試制度別成績、態度
			各科目成績

在学中課程レベル

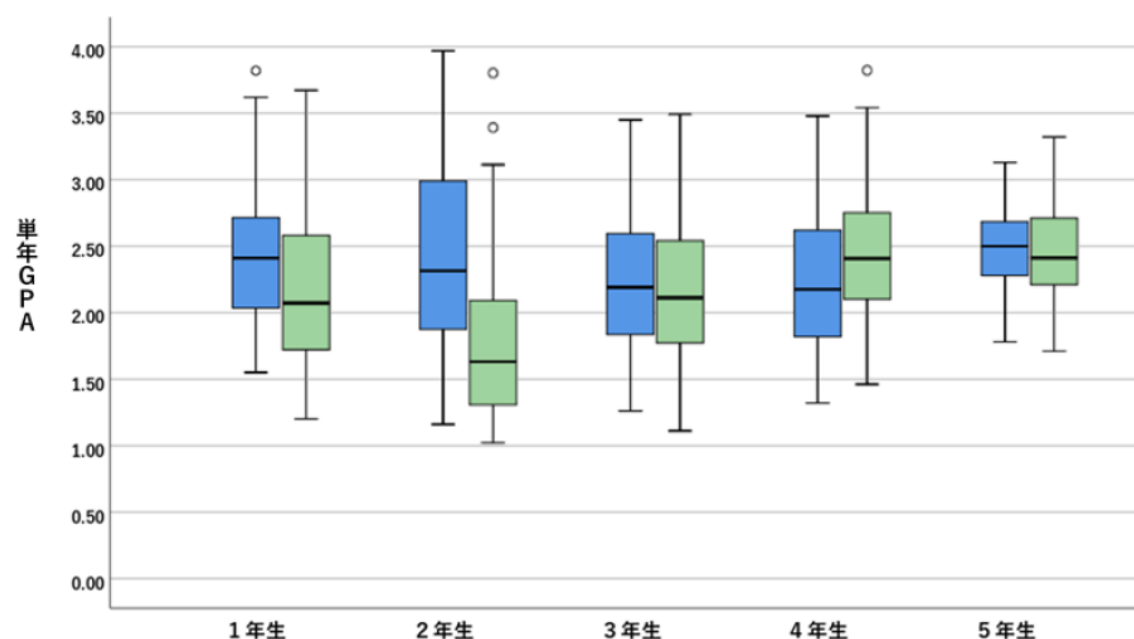
【修得単位数（進級率、休学率、退学率）】

根拠会議	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定のための医学教育センター会議 ・進級判定のための医学部教授会議 																																																																
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・5月カリキュラム小委員会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 																																																																
評価	<p>2020年度：進級要件、実習要件、卒業要件を満たさなかった学生数</p> <p style="text-align: center;">平成27～令和2年度原級留置者数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>原級留置</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和1年度</th> <th>令和2年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第2学年生</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>第3学年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>第4学年生</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>第5学年生</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>第6学年生</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>40</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>146</td> </tr> </tbody> </table> <p>【2020年度取り組み】 各学年カリキュラム小委員会、カリキュラム評価委員会、医学教育センター会議ともに例年と比較して、特段の差異は見られず「全学年通しても適正な数字と言える」とのことであった。</p> <p>【2019年度からの課題に対して】 課題： 2019年度第6学年原級留置についてもすでに学修支援を開始しているが、グループ学習を身につけさせること、医師国家試験において必要とされる総合的な臨床推論能力の未熟さを再確認させることが必要である。また2020年度からは、副教育センター長が1～5年の学習支援も担うことになり、各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に施行し今後も成績伸び悩みの学生の早期発見をめざす。</p> <p>取り組み： ・2020年度からは、副教育センター長が1～5年の学習支援も担うことになり、各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に実施。2019年度第6学年原級留置者については、原級留置が決まった段階からフォローを開始し休学者以外は2020年度に全員卒業することができた。</p>	原級留置	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計	第1学年生	1	1	5	4	6	3	20	第2学年生	4	6	6	2	2	4	24	第3学年生	1	1	7	7	6	4	26	第4学年生	6	1	5	1	1	4	18	第5学年生	5	3	7	5	1	0	21	第6学年生	8	2	10	7	4	6	37	合計	25	14	40	26	20	21	146
原級留置	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計																																																										
第1学年生	1	1	5	4	6	3	20																																																										
第2学年生	4	6	6	2	2	4	24																																																										
第3学年生	1	1	7	7	6	4	26																																																										
第4学年生	6	1	5	1	1	4	18																																																										
第5学年生	5	3	7	5	1	0	21																																																										
第6学年生	8	2	10	7	4	6	37																																																										
合計	25	14	40	26	20	21	146																																																										
次年度改善課題（改善すべき事項）	進級率、休学率、退学率の結果活用については、経年モニタリングにとどめるが、原級留置、成績不振学生をできるだけ出さない、原級留置決定後すぐの介入と、継続した面談、フォローする学修支援体制の維持が必要である。																																																																
関連資料	資料2-1：原級留置生推移・進級率																																																																

【GPA】

根拠会議	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定のための医学教育センター会議 ・進級判定のための医学部教授会議 																																																						
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・5月カリキュラム小委員会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 																																																						
評価	<p>2020年度学年ごとの単年GPA分布</p> <p>2020年度 医学部 学年ごとの単年GPA分布</p> <p style="text-align: right;">2021年4月6日 IR室</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>4年生</th> <th>5年生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GPA 学年平均値</td> <td>2.40</td> <td>2.42</td> <td>2.26</td> <td>2.22</td> <td>2.47</td> </tr> <tr> <td>GPA 学年中央値</td> <td>2.37</td> <td>2.32</td> <td>2.19</td> <td>2.19</td> <td>2.50</td> </tr> <tr> <td>最小値</td> <td>1.55</td> <td>1.16</td> <td>1.19</td> <td>1.32</td> <td>1.78</td> </tr> <tr> <td>最大値</td> <td>3.82</td> <td>3.97</td> <td>3.80</td> <td>3.48</td> <td>3.13</td> </tr> <tr> <td>標準偏差</td> <td>0.50</td> <td>0.75</td> <td>0.54</td> <td>0.53</td> <td>0.31</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>109</td> <td>104</td> <td>115</td> <td>110</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>下位4分の1:GPA</td> <td>2.01</td> <td>1.87</td> <td>1.83</td> <td>1.82</td> <td>2.27</td> </tr> <tr> <td>下位4分の1:該当人数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	GPA 学年平均値	2.40	2.42	2.26	2.22	2.47	GPA 学年中央値	2.37	2.32	2.19	2.19	2.50	最小値	1.55	1.16	1.19	1.32	1.78	最大値	3.82	3.97	3.80	3.48	3.13	標準偏差	0.50	0.75	0.54	0.53	0.31	人数	109	104	115	110	109	下位4分の1:GPA	2.01	1.87	1.83	1.82	2.27	下位4分の1:該当人数	27	25	28	26	27
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生																																																		
GPA 学年平均値	2.40	2.42	2.26	2.22	2.47																																																		
GPA 学年中央値	2.37	2.32	2.19	2.19	2.50																																																		
最小値	1.55	1.16	1.19	1.32	1.78																																																		
最大値	3.82	3.97	3.80	3.48	3.13																																																		
標準偏差	0.50	0.75	0.54	0.53	0.31																																																		
人数	109	104	115	110	109																																																		
下位4分の1:GPA	2.01	1.87	1.83	1.82	2.27																																																		
下位4分の1:該当人数	27	25	28	26	27																																																		

【参考】2020年度単年度 GPA 分布■と2019年度分布■の比較



【2020年度結果検証】

＝2020年度カリキュラム全体について＝

■1年生カリキュラム小委員会

科目ごとの GP、学年の単年度 GPA も前年度の 2019 年度と比較して上昇傾向にある。学生からの意見として、「入学後、先輩からの情報が入る時間もなくて遠隔授業が始まったので、一生懸命勉強していた」、「オンデマンド教材を先生方がアップしてくださっていて、理解しやすかったし復習しやすかったと思う」との声が上がった。教員からも「遠隔授業の間、学生からメールでの質問がたくさんあり、前期成績もとても良かった。例年より悪い条件であったにもかかわらず、積極的な学生は繰り返し勉強し効果が上がったのではないかと意見が出された。

■2年生カリキュラム小委員会

解剖学ではレポート評価となったが、講義ごとにレポート提出を課していたので、学生は100を超える課題に取り組んだことになる。きちんと取り組んだ学生は例年よりもしっかりと知識が身についたと思われる。全体的に遠隔授業が長期にわたり、学生の課題へ取り組む姿勢が勉強の習慣につながったのではないかと。

■3.4年生カリキュラム小委員会

科目ごとの GP 分布については、本来、各科目の成績はシラバスに明記されている科目のゴールに到達しているかどうかであるため、全科目横ばいである必要はない（あまり極端な差異は困るが）。

3年生…2019年度と比較して全体的に GP が高くなっているが、これについては学生委員より「自分たちの時は資料配布のない科目もあったが、新型コロナウイルスの影響もあり資料配布する授業が多くなったことも要因にあるのではないかと」という意見が出された。

4年生…2020年度に旧カリから新カリへの移行があったため、単純な比較はできない。試験日程については、2020年度は新型コロナウイルスによる突発的な変更が多くままならなかったが、試験が集中しないようカリキュラム上でも調整している。

■5.6年生カリキュラム小委員会

2019年度と2020年度と比較した結果、内科系の科目について2020年度の中央値が高めになっているが見てとれる、また2019年度と比べて2020年度の GPA 分布が高いことが顕著になっている。昨年度は半分遠隔授業になり、課題等の提出等を真面目に行ったことにより評価が低くなるものが少なかったのではないかと。

■カリキュラム評価委員会

文科省より遠隔授業実施にあたっては、習熟度を確認するよう指示が出ていたこともあって、特に1年生は各科目から課題が出されていた状況だったが、非常にまじめに取り組んでいた。ただ、課題を出せば評価につながるのでもそういった意味で通常の試験よりも点数があがったといえる。

【2019年度からの課題に対して】

課題：

本学医学部カリキュラムはほぼ全科目が必修となっている。その中で GPA の使い方について議論と検討が必要である（6月教育戦略会議）。

取組み：

2020年度4年生の DP 項目ごとの GPA

2020年度はトライアルで、IR室と協働で第4学年について「各科目 GP」と「レベルマトリクスで紐づけた DP」を組み合わせ、各 DP コンピテンス項目における学生個々の能力について可視化させた。

現在、医学部では「学勢調査」学修部分の回答データを用いて、学年ごとの DP 到達度を検証している。これは学生の主観的評価に基づく間接評価である。一方、点数・評価・合否・GPA といった客観的数値に基づく評価・検証、すなわち直接評価も行われているものの、この直接評価による DP 到達度検証にはつながっていなかった。DP 到達度検証については、改めて何かをするというよりも、今あるもの（DP に基づくレベルマトリクス、コンピテンス・コンピテンシー等も作成されている）でうまく直接評価できないかということから今回の分析報告となった。

直接評価を用いた DP 到達度検証の方法としては、

1. シラバスのレベルマトリクスに基づき、学年別、DP 項目ごとに科目を整理する。
2. 各学年、DP 項目（D1～D6）カテゴリーの科目得点を集計し、DP 別 GPA を算出する。
3. 学年全体として DP 別平均 GPA を算出し、学生個人として DP 別 GPA をレーダーチャートによって可視化する。の手順を進めた。

全体 GPA 自体はそれほど変わらない学生同士が、DP 各々の項目別にみると、それぞれの特徴がうかがえる。

将来的に考えられる活用としては、

- ・学年全体としては、DP 別平均 GPA は年度比較を行うことで、これまでの単年 GPA ではスコアの上下の分布でし

かわからなかった様子がわかり、学年のコーホート特性をつかみやすい。
 ・学生個人としては、これまでの単年GPAよりも、客観的に自分の得手不得手や達成を確認することが可能になる。
 これらのことを、学生にもフィードバックすることで自分の学修成果可視化につながると思われる。
 分析の区切りとしては、4年生がいったんの総括を見る学年として適しており、臨床実習への申し送りにもつ
 かえるのではないかと。

DP項目別 GPA の活用

表 2020年度4年生のGPA項目ごとのGPAと単年GPA(6ケースのみ)

学籍番号	D1	D2	D3	D4	D5	D6	単年GPA
	2.24	2.18	2.05	2.24	2.16	2.27	2.18
	2.41	2.25	2.51	2.88	2.47	2.00	2.50
	2.19	2.77	1.84	2.59	1.26	2.91	2.48
	2.46	2.73	2.27	2.82	2.11	2.82	2.62
	1.19	1.16	1.00	1.47	1.00	1.09	1.33
	1.89	2.02	1.49	2.29	1.37	2.36	2.03
average	2.02	2.15	1.81	2.45	1.81	2.13	2.19

図 レーダーチャートによるDP到達の可視化



D1	D2	D3	D4	D5	D6
論理とプロフェッショナリズム 大塚医科大学学生は、卒業時に高度専門職人としての高い自律性と、大塚医大人としての誇りをもとに、自己啓発能力をコアコンピタンスとして、社会を主体的に発展させていくことができるよう、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	医学科学的知識 大塚医科大学学生は、卒業時に、医学、医療及びその基礎となる科学的知識を十分に習得し、学術上の知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	実践的診療能力 大塚医科大学学生は、卒業時に、統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用し、患者の健康と安全に貢献し、患者の健康と安全を確保し、安全かつ適切な診療を提供できる。	自律的臨床能力 大塚医科大学学生は、卒業時に、基礎と臨床を統合して、科学的思考に基づいて批判的に学び、病態及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用し、患者の健康と安全に貢献し、患者の健康と安全を確保し、安全かつ適切な診療を提供できる。	多職種連携とコミュニケーション 大塚医科大学学生は、卒業時に、他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、継続して関係を築くことで協力を得ることができる。また、自分の専門知識やスキルを積極的に活用し、チーム医療の発展に貢献することができる。	医療の社会性と国際性 大塚医科大学学生は、卒業時に、本邦の医療経済、法、倫理、医学及び学生の側面、ならびに国際医療を包括的に理解し、地域の特性を考慮した適切な対応に資する医療従事者である。医学教育者として、患者中心の多職種連携改善を推進するために、チーム医療の発展に貢献し、患者の健康と安全に貢献することができる。
卒業資格取得(卒業) 卒業率97.0% 卒業率(卒業) 卒業率97.0%					
第4学年 卒業率97.0%					
加齢・高齢学 M-08-18-D 加齢 M-08-20-D シバリアン M-08-22-D 加齢・高齢学 M-08-23-D 加齢学 M-08-24-D 加齢学 M-08-25-D 加齢学 M-08-26-D 加齢学 M-08-27-D 加齢学 M-08-28-D 加齢学 M-08-29-D 加齢学 M-08-30-D 加齢学 M-08-31-D	加齢学(国際) M-08-18-D 加齢学(国際) M-08-19-D 加齢学(国際) M-08-20-D 加齢学(国際) M-08-21-D 加齢学(国際) M-08-22-D 加齢学(国際) M-08-23-D 加齢学(国際) M-08-24-D 加齢学(国際) M-08-25-D 加齢学(国際) M-08-26-D 加齢学(国際) M-08-27-D 加齢学(国際) M-08-28-D 加齢学(国際) M-08-29-D 加齢学(国際) M-08-30-D 加齢学(国際) M-08-31-D	加齢学(国際) M-08-18-D 加齢学(国際) M-08-19-D 加齢学(国際) M-08-20-D 加齢学(国際) M-08-21-D 加齢学(国際) M-08-22-D 加齢学(国際) M-08-23-D 加齢学(国際) M-08-24-D 加齢学(国際) M-08-25-D 加齢学(国際) M-08-26-D 加齢学(国際) M-08-27-D 加齢学(国際) M-08-28-D 加齢学(国際) M-08-29-D 加齢学(国際) M-08-30-D 加齢学(国際) M-08-31-D	加齢学(国際) M-08-18-D 加齢学(国際) M-08-19-D 加齢学(国際) M-08-20-D 加齢学(国際) M-08-21-D 加齢学(国際) M-08-22-D 加齢学(国際) M-08-23-D 加齢学(国際) M-08-24-D 加齢学(国際) M-08-25-D 加齢学(国際) M-08-26-D 加齢学(国際) M-08-27-D 加齢学(国際) M-08-28-D 加齢学(国際) M-08-29-D 加齢学(国際) M-08-30-D 加齢学(国際) M-08-31-D	シバリアン M-08-22-D 加齢学 M-08-23-D 加齢学 M-08-24-D 加齢学 M-08-25-D 加齢学 M-08-26-D 加齢学 M-08-27-D 加齢学 M-08-28-D 加齢学 M-08-29-D 加齢学 M-08-30-D 加齢学 M-08-31-D	加齢学 M-08-18-D 加齢学 M-08-19-D 加齢学 M-08-20-D 加齢学 M-08-21-D 加齢学 M-08-22-D 加齢学 M-08-23-D 加齢学 M-08-24-D 加齢学 M-08-25-D 加齢学 M-08-26-D 加齢学 M-08-27-D 加齢学 M-08-28-D 加齢学 M-08-29-D 加齢学 M-08-30-D 加齢学 M-08-31-D

原級留置者・成績不良者に対するメンタリング

・2020年度から、副教育センター長が1～5年の学習支援も担うことになり、各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に施行。メンターによる定期的な面談が実施され、毎月の医学教育センター会議においても各メンターより継続して報告された。
 ・6年生についてはすでに2018年度からフォロー開始。2019年度卒業判定により原級留置となった学生については、休学者2名を除き2020年度全員が卒業となった。

学修成果フィードバック

学勢調査の「学修成果部分」を今年度から学生個人に着目して実施し、記名式とした。成績評価(GPA込み)とともに、年度末に学生個々へ返却し、毎年ポートフォリオ形式で積み上げていくこととなった。

次年度改善課題(改善すべき事項)

「GPから見た医学部ディプロマポリシー達成度」について
 ・4年生のサンプルを全員分出して見て、次の学年(臨床実習)とのつながりに活用したい。
 ・将来的には、科目それぞれにDPに対する重みづけがあり、1:1ではなく、その重みづけをいかす分析につなげたい。

関連資料

資料2-2: 2019年度医学部学年ごとの単年GPA分布【HP公開済】
https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/gpa2020.html
 資料2-3: 2020年度4年生のDP項目ごとのGPA

【学勢調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査)】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会
評価	<ul style="list-style-type: none"> ■学勢調査回答率

学年	%
1年	82%
2年	90%
3年	77%
4年	97%
5年	65%
6年	81%

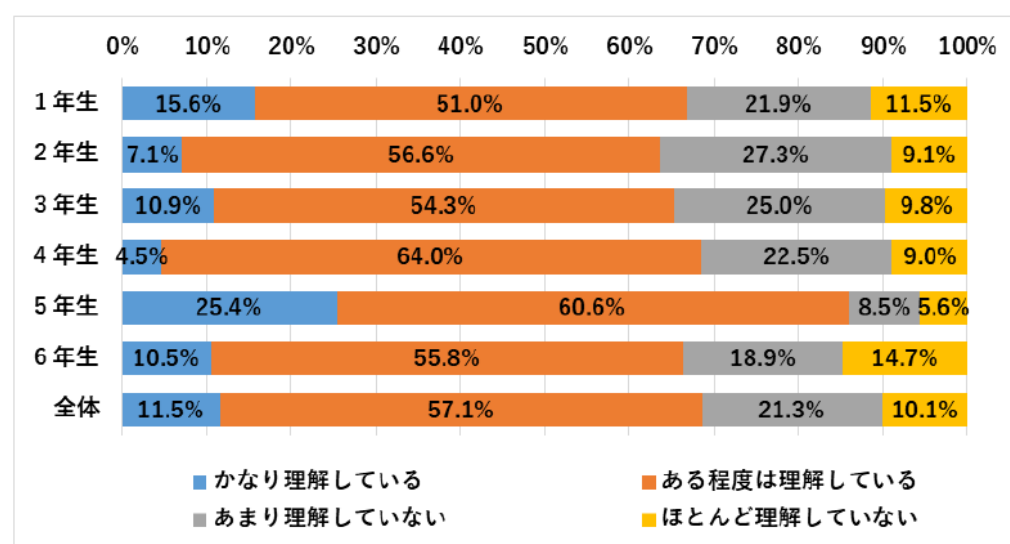
【2020年度結果検証】

6月医学教育センター会議、カリキュラム評価委員会において、学習者から見た学修成果について検証がなされた。本件は、毎年、学勢調査の一環として実施し、IR室によって分析され、大学のホームページにも公開されているものである。前年度と比較して分析、検証を行っている。

■「建学の精神」の認知

昨年度と比べると「建学の精神」を理解する割合が高くなっている。これは、年度初めのオリエンテーション、シラバスにおいても周知徹底したことで、認知度が高まったものと思われる。

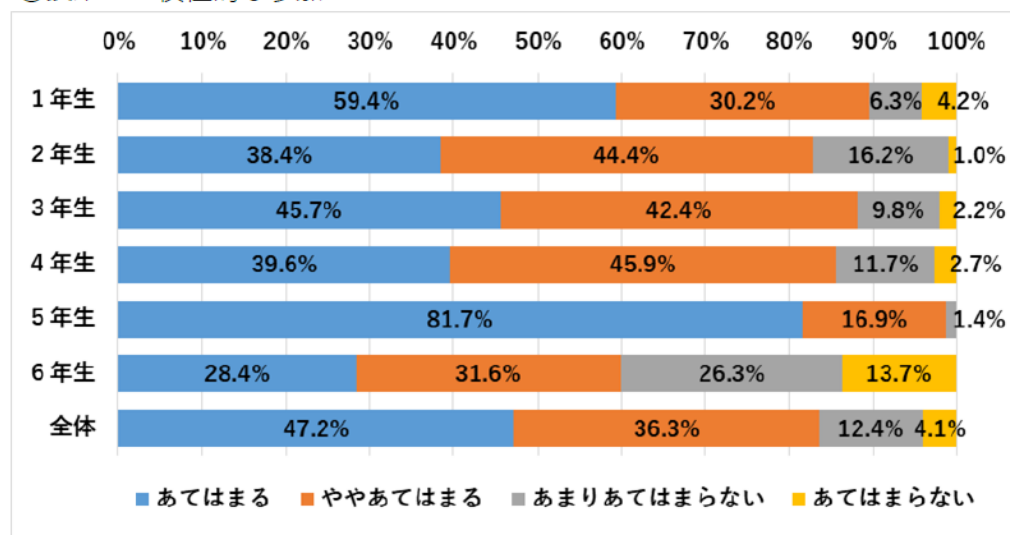
① 「建学の精神」の認知



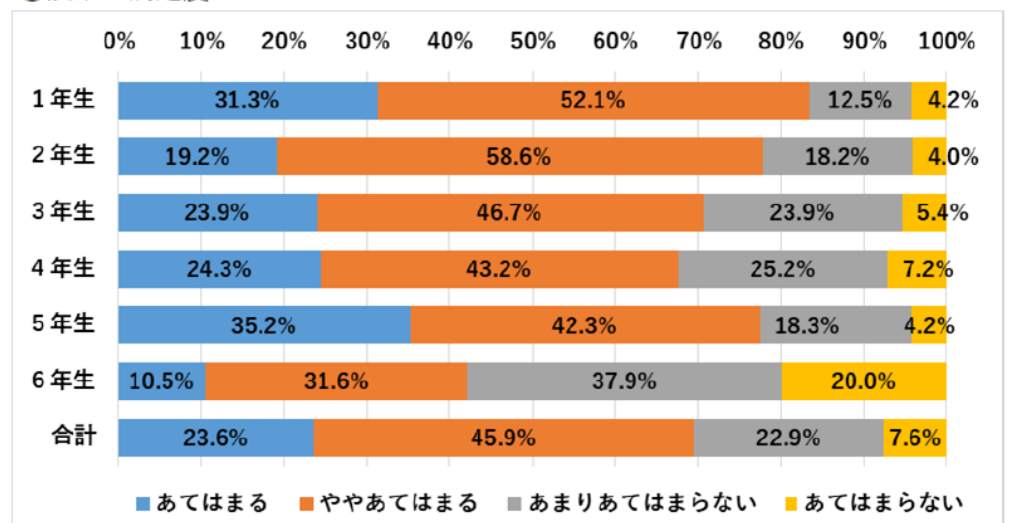
■2020年度カリキュラムに関して

授業の満足度については、2019年度比較的満足しているとする学生が約3割にとどまっていた3年生で、2020年度は約7割が比較的満足していると回答している。また、2019年度の3年生である2020年度の4年生で、比較的満足しているという回答が約7割となっている。この結果は、2019年度の調査結果を受けて学生の声も踏まえながら新カリキュラム導入の検証と対策を進めていることを反映しているものだと考えられる。

①授業への積極的な参加



②授業の満足度



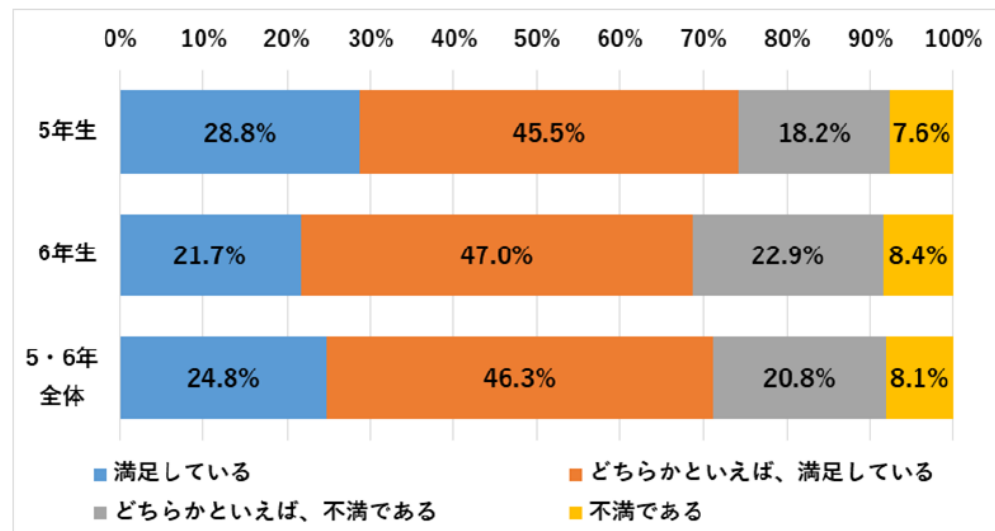
本件について、カリキュラム評価委員会に参加した学生委員からの意見は下記のとおりである。

6年生	「法医学演習」は4年の「死と科学」との区別がつきにくかった。
5年生	OSCEが、感染対策の観点からなかなか通常通りの試験とはいかなかったのが残念だった。
4年生	授業終わりに先生に直接質問するということはオンラインではできないため、その点では面接授業の方がよいと思った。
3年生	昨年度、解剖実習ができなかったのは残念だったが、先生方が資料を工夫してくださり、遠隔でもわかりやすいものになっていた。
2年生	しんどかったこともあるが、この授業は不要だなどとおもったことはない。

■臨床実習での全体的な満足度

臨床実習全体に対する満足度では、比較的満足しているとする学生が5年生、6年生ともに約7割で、昨年度、比較的満足しているという回答が8割を超えていたことと比べると、2020年度の満足度はやや低くなっている。これらの結果から、新型コロナウイルスのために実習が中断したり、制限されたりした期間があったことで実習時間と満足度にその影響があったと考えられる。

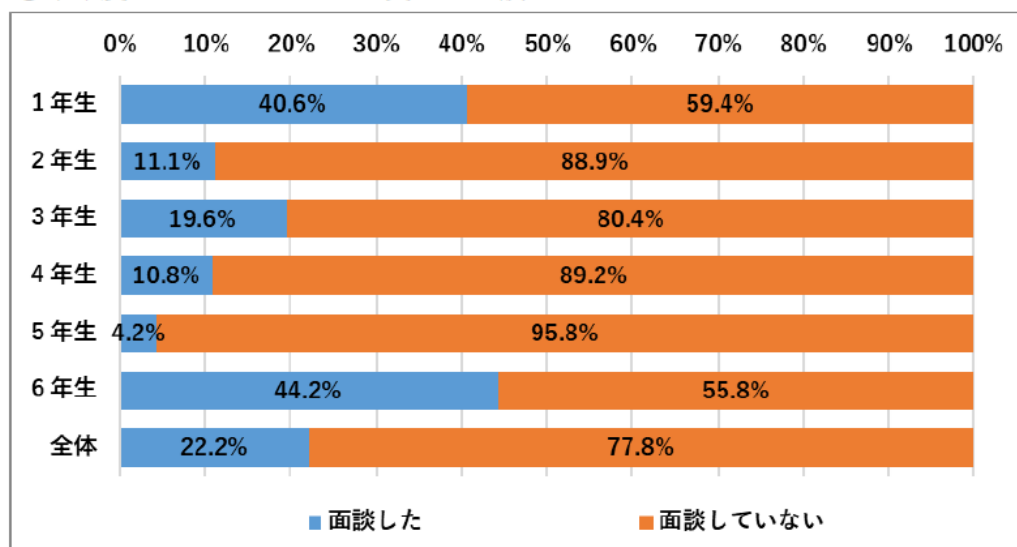
⑦ 臨床実習での全体的な満足度



■今年度の担任・メンター教員との面談

2019年度と比較すると、2019年度は9割が面談を経験していた5年生で、2020年度面談した割合が1割に満たないことが変化として確認できる。本件については「2019年度の5年生は全員にメンターをつけていたが、2020年度から成績不良者、原級留置者に特化して学習支援を行う方針に切り替えたことからこの結果になったのではないか」との意見が出された。アンケートの間についても、全員にたずねるのではなく学習支援を受けた学生についてのみ問う方法がよいのではないかという意見がだされ、医学教育センターで見直しが必要となった。

⑦今年度の担任・メンター教員との面談



【2019年度からの課題に対して】

課題：「医療の社会性」と「医療の国際性」

取組み（継続課題）：

医療の国際性と社会性の部分については、区別して問うべきではないという意見が以前から出されており、ディプロマポリシー見直しが必要。

次年度改善課題（改善すべき事項）

授業の満足度については、2019年度よりも改善されていたものの、3.4年カリキュラム小委員会では、2020年度カリキュラムを振り返って下記意見がだされている。

ライフステージコース

- ・コース内の授業の重複（成長発達、思春期での授業内容重複）
- ・コース内の授業順序と時間軸の見直し（本来、妊娠出産からスタートすべきところ、加齢高齢者や思春期、成長発達など同時スタートや混在しているため、ライフステージ学習がしにくくなっている）

プロフェッショナルリズム・コア、診断学講義

学生より「コアCCが始まっているが、カルテの書き方について臨床実習で初めてトライするのではなく、事前の講義等で教えていただけたら」という意見が出され、今後のプロフェッショナルリズム・コア、または診断学講義で取り入れるよう検討する。

病原体・生体防御3

学生より「グラム染色の授業が2020年度は実施されなかったと聞いている。非常に面白い授業で今後にも役に立つ。補講とかはされないのか」という意見が出された。教員より「夏休みを利用した補講など考えたい」旨回答された。

関連資料	資料2-4：2020 学勢調査医学部学修項目
------	------------------------

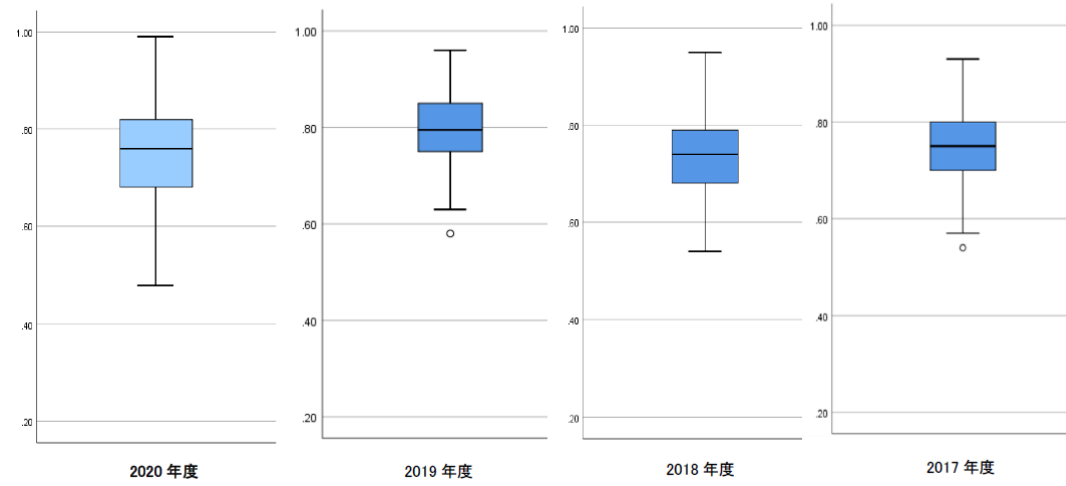
【学年総合試験成績】

根拠会議	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定のための医学教育センター会議 ・進級判定のための医学部教授会議
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・5月カリキュラム委員会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会
評価	<p>【2020年度結果に対する検証】</p> <p>3年生総合試験については、PBL科目成績との乖離がみられる学生多という意見が進級判定のための臨時教育センター会議で出された。3.4年生カリキュラム小委員会では、医学教育センターでは成績下位者および成績不良者はメンターを付けているが、範囲が広い試験への苦手意識、学生の特性などについても確認する必要がある。また、総合試験の勉強は各科目の授業進度とは別に進めていかねばならないものであるためそのあたりの確認も必要であると加えられた。</p> <p>総合試験に関しては、IR室と協働し、下記の分析・検証を行っている。各々の検証結果については、各アセスメント項目のところに記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生共用試験 CBT にみる3年生総合試験導入前後の変化 ・2014-2018年度4年 CBT 成績と5年臨床実習履修評価試験および6年総合成績の相関 ・4年生 CBT と関西公立私立共通卒業試験との得点率の相関分析 ・第115回医師国家試験と4試験合計下位30%層受験者の各試験と国試合否の関係 <p>【2019からの課題に対して】</p> <p>課題：3年生総合試験の学修範囲を開示された年度とそうでない年度があり統一されておらず、進級試験の条件がアンバランスではないか。(カリキュラム評価委員会学生からの意見)</p> <p>取組み：2020年度は、3年生で学ぶべき範囲をシラバス、コア・カリと精査し、学生にも学習範囲を明示した。</p> <p>課題：「5年生臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析」において、5年生臨床実習履修評価試験でいったん順位が上がるのに、6年生総合試験でまた順位が下がってしまうという傾向がみられることについて検証が必要(カリキュラム評価委員会IR室からの意見)</p> <p>取組み：試験実施を厳格化することと新型コロナウイルス対策のため、昨年度から3部屋に分けて試験を実施、カンニング対策を取った。また、今年度の115回医師国家試験結果と学内試験結果の関連は、総合試験ならびに共通試験の総得点の成績が振るわない(65%未満)と不合格になる傾向がみられるという分析がIR室から出され、学内試験および評価が厳格に行われていると言える。</p>
次年度改善課題(改善すべき事項)	<p>学事予定の検証時に、「共用試験CBT終了から5年生臨床実習履修評価試験までの期間が長すぎる」という指摘があった。この件については、将来的には、5年生の秋くらいに従来の臨床実習履修評価試験前段階にあたる何らかの試験を課す方向で議論を進めている。</p>
関連資料	なし

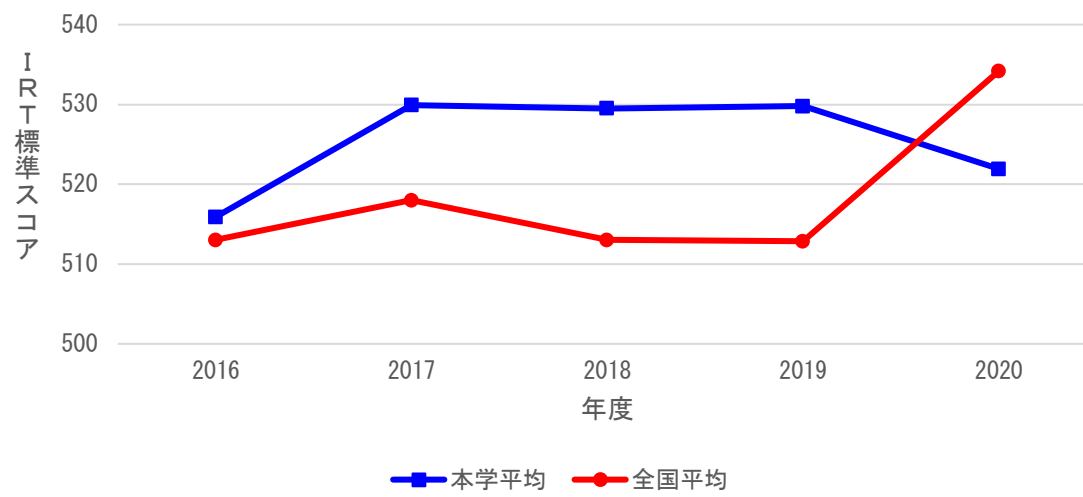
【共用試験成績】

根拠会議	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定のための医学教育センター会議 ・進級判定のための医学部教授会議
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・5月カリキュラム小委員会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 ・7月医学教育センター会議 ・7月医学部教授会 ・7月カリキュラム委員会
評価	<p>【2020年度取り組みに対する検証】</p> <p>＝共用試験CBT＝</p> <p>2020年度共用試験 CBT の全国IRT平均点と比較し、本学は、2019年度学内成績より下降、且つ全国平均を下回っていることが分かった。これは、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構第8回定時総会(2021年6月3日開催)に出席した医学部長からの指摘であり、医学教育センター長、医学部教授会でも議題にあげられた。遠隔授業下でも全国平均が上がっていることから、本学学生の勉強方法を見直すべきなのか、もう少し低学年から勉強させるのが良いのか、新たな課題となった。</p> <p>2021年6月のカリキュラム評価委員会では、外部委員よりCBT対策を3年からではなく1年生から総合試験を導入するなどの例もあげられたが慎重な継続して慎重な審議が必要である。</p> <p>7月のカリキュラム委員会では、IR分析のヒストグラム資料も示され、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国平均点以下の層が大きくなっている ・最高点も例年ほど高くない <p>ことが説明された。すでに現5年生には、臨床実習で回っている診療科の勉強は各自進めておくよう周知徹底している状況である。</p>

過去4年間の3年生総合試験得点率の分布図



過去5年間 IRT標準スコア（本学平均・全国平均）



CBTに係る資料

2014-2018年度 4年 CBT 成績と5年臨床実習履修評価試験および6年総合成績の相関

CBT受験年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
CBT-臨床実習履修評価試験(4年→5年)	.469**	.621**	.644**	.598**	.603**	.775**
臨床実習履修評価試験-総合試験(5年→6年)	.739**	.574**	.684**	.708**	.603**	—
CBT-総合試験(4年→6年)	.544**	.536**	.527**	.570**	.775**	—
n	102	108	113	106	93	114

** p<0.01

ポイント

全体として、CBTの得点率は、5年生の臨床実習履修評価試験と6年生の総合試験の得点率とかなり相関がある。

2013-2017年度 CBT 成績と国試不合格の関連（ロジスティック回帰分析）

説明変数	β	オッズ比	EXP(β) の 95% 信頼区間
性別 (女性)	-0.12	0.88	0.44 ~ 1.78
高校卒業後 現役			
卒後1年	0.22	1.25	0.41 ~ 3.78
卒後2年	1.25 *	3.47	1.20 ~ 10.05
卒後3年以上	1.15 *	3.17	1.08 ~ 9.31
国試受験年度 2013年			
2014年	-0.39	0.68	0.24 ~ 1.92
2015年	0.34	1.40	0.52 ~ 3.75
2016年	0.84	2.31	0.96 ~ 5.53
2017年	-0.09	0.92	0.35 ~ 2.44
4年共用試験 CBT 上位			
中間	1.80 *	6.05	1.39 ~ 26.27
下位25%	3.19 **	24.23	5.57 ~ 105.39

**p<0.01 *p<0.05

ポイント

1. 基本属性に関しては、国試の不合格率において性別に有意差はない。また、成績の影響を統制する（全員が同じ成績だったとすれば）と、現役で入学した学生よりも、「卒後2年」と「卒後3年以上」で入学した学生は、国試で約3倍不合格になるリスクがある。

2. 国試の結果について、4年生 CBT の成績上位層（上位25%未満）に比べて、成績中間層（25%以上75%未満）では約6倍、成績下位層（下位25%未満）では約24倍不合格になるリスクがある。

*実際は、CBT 成績と卒後年数、あるいはこの分析で考慮されていない要因との複合的な原因によって、合否がわかるので、「卒後年数」や「CBT 成績」はモデルとしての計算上のリスクである。

昨年度の「2018年度4年生 CBT と 2019年度5年生臨床実習履修評価試験の関連」に加え、6年総合成績との相関についても分析結果が出された。全体として、CBTの得点率は、5年生の臨床実習履修評価試験と6年生の総合試験の得点率とかなり相関があることや、国試の結果について、4年生CBTの成績上位層（上位25%未満）に比べて、成績中間層（25%以上75%未満）では約6倍、成績下位層（下位25%未満）では約24倍不合格になるリスクがあることが分かった。

2021年3月19日
IR室

4年生 CBT と関西公立私立共通卒業試験との得点率の相関分析
2017-2020 年度卒業（国試受験）

2017 年度卒業	度数	平均得点率	r
CBT	107	0.750	.201*
共通卒試	119	0.777	

*p<0.05

2018 年度卒業	度数	平均得点率	r
CBT	107	0.790	.717**
共通卒試	118	0.730	

**p<0.01

2019 年度卒業	度数	平均得点率	r
CBT	93	0.807	.695**
共通卒試	102	0.751	

**p<0.01

2020 年度卒業	度数	平均得点率	r
CBT	113	0.798	.703**
共通卒試	124	0.759	

**p<0.01

「2017 年度卒業」のみ CBT と共通卒試の得点率にほとんど相関がみられなかったが、2018 年度以降には両者にかなり強い相関がみられる。

2020 年 6 月カリキュラム評価委員会外部委員から、CBT と関西公立私立共通卒業試験の関連について分析されてはどうかという意見をいただき、直近過去 4 年間の相関について IR 室で分析した（CBT は本試験の得点率）。「2017 年度卒業」学年のみ CBT と共通卒試の得点率にほとんど相関がみられなかった（関西公立私立共通卒業試験トライアル初年度）が、2018 年度以降には両者にかなり強い相関がみられるとの分析結果が出ている。医師国家試験予測においては、CBT 得点率が重要な資料となることがわかる。

本件は 6 月医学教育センター会議にて検証されたが、

- ・ CBT の得点率が低かった学生はクリクラに回ってきても学力低下が顕著であり、成績のヒエラルキーについては特に CBT 以降は固定化される傾向にある。
- ・ 2018 年度以降の共用試験 CBT と関西公立私立共通卒業試験との相関が強いのは、関西公立私立共通卒業試験の精度もあがってきたからではないか。

等の意見が出された。

2021 年 6 月のカリキュラム評価委員会では、

- ・ このデータの R 値を見ても、成績下層部では 5.6 年生で若干上に行ける人もいるが、多くはそのままのパターンが多いということがわかる。ただし、これは良医になるかどうかとは別の問題といえる。5.6 年生では知識を身に着けるのではなく、3.4 年生で身に着けた知識をもって患者と向き合う時間である。
- ・ 教育センター会議で 5.6 年生の教育内容が良くないのではないかと…という意見が出たという話があったが、その気持ちも少し理解できる。おそらく臨床教員は、国家試験に合格するための授業ではなく、患者とのコミュニケーション含め、良医を育てる教育をしているのではないかと。合格することが目的なのか、そこに現場の先生方との乖離が生まれているように思う。

等の意見がだされた。

＝共用試験 OSCE＝

PCC-OSCE への取り組みとして、主に技能・態度を含めた総合診療能力を評価する試験であるが、いわゆる 3 密を回避するためには、従来と同様の方式では実施が不可能と考えられた。2020 年度、本学では、独自の模擬臨床現場ビデオ教材を作成し 3 つの大教室試験場に分かれて実施。受験生はビデオ映像を視聴して模擬カルテ記載を行い、臨場感あふれた状況下での臨床推論能力の評価を行った。この方法により、小部屋、並びに模擬患者やシミュレーターを使用することなく、感染予防対策のもとに試験を実施することが可能となった。

【2019 年度からの課題に対して】

課題：数年計画で考え、Student Doctor の質が保てるよう将来的には共用試験 CBT の合格基準を少し上げてゆく。

取り組み：

Student Doctor の質が保てるようにしなければならないが、共用試験 CBT の合格基準については医師法改正に沿った国の動きと合わせていく必要がある。CBT をギリギリ合格し進級した学生への学修サポートについても考えてゆく必要がある。

次年度改善課題（改善すべき事項）

- ・ 数年計画で考え、Student Doctor の質が保てるよう共用試験 CBT の合格基準については医師法改正に沿った国の動きと合わせて検討を続けていく必要がある（継続課題）。
- ・ 共用試験 CBT に向けた早期学修フォロー（1.2 年生での対策も考える）

関連資料

資料 2-5：4 年生共用試験 CBT にみる 3 年生総合試験導入前後の変化
資料 2-6：2014-2018 年度 4 年 CBT 成績と 5 年臨床実習履修評価試験および 6 年総合成績の相関
資料 2-7：4 年生 CBT と関西公立私立共通卒業試験との得点率の相関分析
資料 2-8：CBT 過去 5 年間平均

【授業評価アンケート／ポートフォリオ】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月各学年カリキュラム小委員会 ・ 6月医学教育センター会議 ・ 6月カリキュラム評価委員会 																																																																																																																																																																																																																															
評価	<p>【2020年度取り組みに対する検証】</p> <p>2020年度「授業評価アンケート」回収率</p> <table border="1" data-bbox="577 504 961 786"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>76.8%</td> <td><u>45.3%</u></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>77.0%</td> <td><u>44.1%</u></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>71.1%</td> <td><u>31.4%</u></td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>56.0%</td> <td><u>33.5%</u></td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>65.8%</td> <td><u>50.5%</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>「新型コロナウイルス対応で前期は遠隔授業が続いたこともあり全体的に回収率が下がった。</p> <p>2020年度「学勢調査」学修成果部分回収率</p> <table border="1" data-bbox="577 905 961 1231"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>2019</th> <th>2020</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年</td> <td>84.4%</td> <td><u>82.0%</u></td> </tr> <tr> <td>第2学年</td> <td>87.0%</td> <td><u>90.0%</u></td> </tr> <tr> <td>第3学年</td> <td>95.8%</td> <td><u>77.0%</u></td> </tr> <tr> <td>第4学年</td> <td>85.5%</td> <td><u>97.0%</u></td> </tr> <tr> <td>第5学年</td> <td>96.7%</td> <td><u>65.0%</u></td> </tr> <tr> <td>第6学年</td> <td>91.92%</td> <td><u>81.0%</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>「学勢調査－学修成果部分」についても一部学年でやや回収率が下がっている。</p> <p>【2020年度臨床・クラークシップにおける「学生評価」「自己評価」回収率】</p> <p>新型コロナウイルス対応で前期実習だった6年生は病棟実習実施困難な時期が長く、2020年度「学生評価」「自己評価」は実施していない。下記は5年生「臨床・クラークシップ」の提出率である。</p> <p>■ 第5学年学生評価</p> <table border="1" data-bbox="577 1454 1134 2077"> <thead> <tr> <th>科目名称</th> <th>回答者数</th> <th>全体数</th> <th>回答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>リハビリテーション医学</td><td>102</td><td>109</td><td>93.58%</td></tr> <tr><td>一般・消化器外科学</td><td>88</td><td>109</td><td>80.73%</td></tr> <tr><td>眼科学</td><td>91</td><td>109</td><td>83.49%</td></tr> <tr><td>救急医学</td><td>96</td><td>109</td><td>88.07%</td></tr> <tr><td>胸部外科学</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>形成外科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>口腔外科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>産婦人科学</td><td>96</td><td>109</td><td>88.07%</td></tr> <tr><td>耳鼻咽喉科学</td><td>95</td><td>109</td><td>87.16%</td></tr> <tr><td>小児科学</td><td>97</td><td>109</td><td>88.99%</td></tr> <tr><td>神経精神医学</td><td>98</td><td>109</td><td>89.91%</td></tr> <tr><td>整形外科</td><td>97</td><td>109</td><td>88.99%</td></tr> <tr><td>内科学(1)</td><td>96</td><td>109</td><td>88.07%</td></tr> <tr><td>内科学(2)</td><td>95</td><td>109</td><td>87.16%</td></tr> <tr><td>内科学(3)</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>内科学(4)</td><td>91</td><td>109</td><td>83.49%</td></tr> <tr><td>脳神経外科学</td><td>98</td><td>109</td><td>89.91%</td></tr> <tr><td>泌尿器科学</td><td>93</td><td>109</td><td>85.32%</td></tr> <tr><td>皮膚科学</td><td>95</td><td>109</td><td>87.16%</td></tr> <tr><td>放射線医学</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>麻酔科学</td><td>91</td><td>109</td><td>83.49%</td></tr> <tr><td>臨床検査医学</td><td>96</td><td>109</td><td>88.07%</td></tr> </tbody> </table> <p>■ 第5学年自己評価</p> <table border="1" data-bbox="577 2166 1134 2804"> <thead> <tr> <th>科目名称</th> <th>回答者数</th> <th>全体数</th> <th>回答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>リハビリテーション医学</td><td>103</td><td>109</td><td>94.50%</td></tr> <tr><td>一般・消化器外科学</td><td>90</td><td>109</td><td>82.57%</td></tr> <tr><td>眼科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>救急医学</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>胸部外科学</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>形成外科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>口腔外科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>産婦人科学</td><td>93</td><td>109</td><td>85.32%</td></tr> <tr><td>耳鼻咽喉科学</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>小児科学</td><td>95</td><td>109</td><td>87.16%</td></tr> <tr><td>神経精神医学</td><td>99</td><td>109</td><td>90.83%</td></tr> <tr><td>整形外科</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>内科学(1)</td><td>97</td><td>109</td><td>88.99%</td></tr> <tr><td>内科学(2)</td><td>94</td><td>109</td><td>86.24%</td></tr> <tr><td>内科学(3)</td><td>91</td><td>109</td><td>83.49%</td></tr> <tr><td>内科学(4)</td><td>91</td><td>109</td><td>83.49%</td></tr> <tr><td>脳神経外科学</td><td>99</td><td>109</td><td>90.83%</td></tr> <tr><td>泌尿器科学</td><td>93</td><td>109</td><td>85.32%</td></tr> <tr><td>皮膚科学</td><td>95</td><td>109</td><td>87.16%</td></tr> <tr><td>放射線医学</td><td>96</td><td>109</td><td>88.07%</td></tr> <tr><td>麻酔科学</td><td>92</td><td>109</td><td>84.40%</td></tr> <tr><td>臨床検査医学</td><td>98</td><td>109</td><td>89.91%</td></tr> </tbody> </table>	学年	2019	2020	1年	76.8%	<u>45.3%</u>	2年	77.0%	<u>44.1%</u>	3年	71.1%	<u>31.4%</u>	4年	56.0%	<u>33.5%</u>	5年	65.8%	<u>50.5%</u>	学年	2019	2020	第1学年	84.4%	<u>82.0%</u>	第2学年	87.0%	<u>90.0%</u>	第3学年	95.8%	<u>77.0%</u>	第4学年	85.5%	<u>97.0%</u>	第5学年	96.7%	<u>65.0%</u>	第6学年	91.92%	<u>81.0%</u>	科目名称	回答者数	全体数	回答率	リハビリテーション医学	102	109	93.58%	一般・消化器外科学	88	109	80.73%	眼科学	91	109	83.49%	救急医学	96	109	88.07%	胸部外科学	94	109	86.24%	形成外科学	92	109	84.40%	口腔外科学	92	109	84.40%	産婦人科学	96	109	88.07%	耳鼻咽喉科学	95	109	87.16%	小児科学	97	109	88.99%	神経精神医学	98	109	89.91%	整形外科	97	109	88.99%	内科学(1)	96	109	88.07%	内科学(2)	95	109	87.16%	内科学(3)	92	109	84.40%	内科学(4)	91	109	83.49%	脳神経外科学	98	109	89.91%	泌尿器科学	93	109	85.32%	皮膚科学	95	109	87.16%	放射線医学	94	109	86.24%	麻酔科学	91	109	83.49%	臨床検査医学	96	109	88.07%	科目名称	回答者数	全体数	回答率	リハビリテーション医学	103	109	94.50%	一般・消化器外科学	90	109	82.57%	眼科学	92	109	84.40%	救急医学	94	109	86.24%	胸部外科学	94	109	86.24%	形成外科学	92	109	84.40%	口腔外科学	92	109	84.40%	産婦人科学	93	109	85.32%	耳鼻咽喉科学	94	109	86.24%	小児科学	95	109	87.16%	神経精神医学	99	109	90.83%	整形外科	94	109	86.24%	内科学(1)	97	109	88.99%	内科学(2)	94	109	86.24%	内科学(3)	91	109	83.49%	内科学(4)	91	109	83.49%	脳神経外科学	99	109	90.83%	泌尿器科学	93	109	85.32%	皮膚科学	95	109	87.16%	放射線医学	96	109	88.07%	麻酔科学	92	109	84.40%	臨床検査医学	98	109	89.91%
学年	2019	2020																																																																																																																																																																																																																														
1年	76.8%	<u>45.3%</u>																																																																																																																																																																																																																														
2年	77.0%	<u>44.1%</u>																																																																																																																																																																																																																														
3年	71.1%	<u>31.4%</u>																																																																																																																																																																																																																														
4年	56.0%	<u>33.5%</u>																																																																																																																																																																																																																														
5年	65.8%	<u>50.5%</u>																																																																																																																																																																																																																														
学年	2019	2020																																																																																																																																																																																																																														
第1学年	84.4%	<u>82.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
第2学年	87.0%	<u>90.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
第3学年	95.8%	<u>77.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
第4学年	85.5%	<u>97.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
第5学年	96.7%	<u>65.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
第6学年	91.92%	<u>81.0%</u>																																																																																																																																																																																																																														
科目名称	回答者数	全体数	回答率																																																																																																																																																																																																																													
リハビリテーション医学	102	109	93.58%																																																																																																																																																																																																																													
一般・消化器外科学	88	109	80.73%																																																																																																																																																																																																																													
眼科学	91	109	83.49%																																																																																																																																																																																																																													
救急医学	96	109	88.07%																																																																																																																																																																																																																													
胸部外科学	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
形成外科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
口腔外科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
産婦人科学	96	109	88.07%																																																																																																																																																																																																																													
耳鼻咽喉科学	95	109	87.16%																																																																																																																																																																																																																													
小児科学	97	109	88.99%																																																																																																																																																																																																																													
神経精神医学	98	109	89.91%																																																																																																																																																																																																																													
整形外科	97	109	88.99%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(1)	96	109	88.07%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(2)	95	109	87.16%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(3)	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(4)	91	109	83.49%																																																																																																																																																																																																																													
脳神経外科学	98	109	89.91%																																																																																																																																																																																																																													
泌尿器科学	93	109	85.32%																																																																																																																																																																																																																													
皮膚科学	95	109	87.16%																																																																																																																																																																																																																													
放射線医学	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
麻酔科学	91	109	83.49%																																																																																																																																																																																																																													
臨床検査医学	96	109	88.07%																																																																																																																																																																																																																													
科目名称	回答者数	全体数	回答率																																																																																																																																																																																																																													
リハビリテーション医学	103	109	94.50%																																																																																																																																																																																																																													
一般・消化器外科学	90	109	82.57%																																																																																																																																																																																																																													
眼科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
救急医学	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
胸部外科学	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
形成外科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
口腔外科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
産婦人科学	93	109	85.32%																																																																																																																																																																																																																													
耳鼻咽喉科学	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
小児科学	95	109	87.16%																																																																																																																																																																																																																													
神経精神医学	99	109	90.83%																																																																																																																																																																																																																													
整形外科	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(1)	97	109	88.99%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(2)	94	109	86.24%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(3)	91	109	83.49%																																																																																																																																																																																																																													
内科学(4)	91	109	83.49%																																																																																																																																																																																																																													
脳神経外科学	99	109	90.83%																																																																																																																																																																																																																													
泌尿器科学	93	109	85.32%																																																																																																																																																																																																																													
皮膚科学	95	109	87.16%																																																																																																																																																																																																																													
放射線医学	96	109	88.07%																																																																																																																																																																																																																													
麻酔科学	92	109	84.40%																																																																																																																																																																																																																													
臨床検査医学	98	109	89.91%																																																																																																																																																																																																																													

	<p>【2020年度カリキュラム振り返り】 =2020年度授業評価アンケート結果について= ■1年生カリキュラム小委員会</p> <p>授業の難易度 「難しかった」の回答が多かったのは、「生命科学1実習（物理）」、「数理科学」であった。学生からは「細胞組織学がテスト勉強で一番苦労した。人体発生学では、高校で生物選択ではなかったので言葉や言葉の漢字表記が難しかった」、「高校で物理選択ではなかったので、生命科学1（物理）は難しかった。人体発生学は完成形までの勉強ができておらず言葉にもなじみがなかったのが難しかった」との意見が出された。</p> <p>将来に役に立つと思う授業などあったか 学生からは「前期のドイツ語が楽しかった。医学心理学・行動科学も好きだった」、「化学の授業は根本的な知識を身に付けることができたし、将来学ぶ臨床科目にも応用でき、役立つのではないかと思った」との意見が出された。</p> <p>遠隔講義部分の配信資料の量と質 学生からは「資料の量は少し多かったようにも思う。質については、画像であっても先生の姿が見えた方が「臨床感」「緊張感」があるように思う」、「資料の量については、先生方が工夫してコンパクトにまとめてくださっていたし特に多いとは感じなかった。質については、時々音声のない図だけの資料がアップロードされていて勉強の時に立ち止まってしまったということもあった」旨意見が出された。</p> <p>■2年生カリキュラム小委員会</p> <p>良かった授業（学生意見） 生化学の授業は遠隔授業用に非常にわかりやすいレジュメを準備してくれ、とても満足している。病原体・生体防御の授業もZoomによるウェブ授業ではあったが対面のような臨場感があり非常にわかりやすかった。</p> <p>遠隔と対面について やはり対面が良い。ウェブ授業だとさぼる学生も出てくる。遠隔はリピートできる面もあるが、対面での1回をきちんと聞いた方が良い。一日中一人で勉強するよりも、先生や友達と会って勉強したい。</p> <p>改善点 早期体験実習は、対面だったにもかかわらず「質問しにくい雰囲気」と回答している学生が多い。</p> <p>■3・4年生カリキュラム小委員会 今後、3・4年の授業に置いて注意すべき点として、下記が挙げられた。</p> <p>ライフステージコース ・コース内の授業の重複（成長発達、思春期での授業内容重複） ・コース内の授業順序と時間軸の見直し（本来、妊娠出産からスタートすべきところ、加齢高齢者や思春期、成長発達など同時スタートや混在しているため、ライフステージ学習がしにくくなっている）</p> <p>プロフェッショナリズム・コア、診断学講義 学生より「コアCCが始まっているが、カルテの書き方について臨床実習で初めてトライするのではなく、事前の講義等で教えていただけたら」という意見が出され、今後のプロフェッショナリズム・コア、診断学講義で取り入れるよう検討する。</p> <p>病原体・生体防御3 学生より「グラム染色の授業が2020年度は実施されなかったと聞いている。非常に面白い授業で今後にも役に立つ。補講とかはされないのか」という意見が出された。教員より「夏休みを使った補講など考えたい」旨回答された。</p> <p>■5・6年カリキュラム小委員会 2020年度5・6年の授業について、学生委員会から下記が挙げられた。 ・4年生の「死と科学」、5年生の「法医学演習」の線引きが曖昧であった。 ・全体としては、新型コロナウイルスで大変な時期に、大学として非常に迅速に対応いただいた。また、臨床実習中、1か月ごとに学生の意見を吸い上げていただき、非常に感謝している。もちろんオペ実習など対面ならではの授業もあるが、日々、遠隔授業がレベルアップしていくのを見て取れた。 ・画像を説明字幕付きで提供してくださるなど、コロナ禍の資料においても非常に工夫いただいた。</p> <p>【2019年度からの課題に対して】 課題：SEAの記載方法について臨床実習前に学生に周知する。 取組み： 2020年度は、実習前オリエンテーションで学生に周知徹底したが、SEAの内容自体が新カリキュラムに沿っていないところもあり、見直しが必要である（5・6年カリキュラム小委員会、カリキュラム評価委員会より）</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・SEAの内容見直し ・コロナ禍であったとはいえ、2020年度は授業評価アンケートの回収率が低すぎたため、2021年度は授業最終日を事務間でも確認し着実に回収できるようにする。 ・3・4年生カリキュラム見直し（ライフステージ、法医学、カルテ等）
関連資料	資料2-9：授業評価アンケート結果 https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/of2vmg0000008uag.html https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/of2vmg0000008umy.html 資料2-10：第5学年ポートフォリオ結果 https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/of2vmg0000008t9c.html

【入試制度別成績、態度】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・1月医学教育センター会議 ・1月医学部教授会 ・2月医学部入試実務委員会 ・A0運営委員会の反省会 ・7月カリキュラム委員会
評価	【2020年度医学部入学試験ごとの入学後成績の分布検証】

	<p>2020年度についても、入学者選抜の妥当性検証、入試制度の改善検討を行うため「2020年度医学部入学試験ごとの入学後成績の分布（2019年度との経年比較有）」の資料を活用して、医学部入試実務委員会およびA0運営委員会の反省会においてそれぞれ選抜の妥当性が検証されており、「入試種別による特段の差異はない」と確認された。</p> <p>カリキュラム委員会においては、ここ数年、センター入試の入学者以外の入学者（3科目入試での入学者）が「文章を読めない、読まない、書けない」という傾向が見受けられる旨報告された。語学のリスニング力についてもセンター試験では導入されているが3教科入試の学生にはその機会がなく、低い傾向にある旨加えられた。</p> <p>【2011-2018年度医学部入試面接評価の検証】（1月教育センター会議、2月医学部入試実務委員会） 2020年度は入試の面接と入学後の成績についてIR室にて分析、医学教育センターで検証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後年数ごとの面接評価の割合をみると、2011年～2018年の入学者合計では卒業後年数（現役生と浪人生）による差はみられない。 ・性別ごとの面接評価の割合をみるとχ^2検定では「2011年度」のみが1%水準で有意差が確認されるものの、2012年度以降は有意差が確認されない。これは、年度別では性別による有意差がほぼ認められないことから、8年間の合計では度数の大きさによって統計的に有意差が認められるのであり、女性の評価がやや高い傾向はあるが、性別によって明確に評価の偏りがあるとまでは言えない。 ・入試面接評価と入学後との関連を確認するため、1年生終了時の成績（席次）との関連をみると、2011年～2018年の入学者合計では入試面接評価と1年生成績には有意な関連はみられない（χ^2検定による）。年度別にみても、2011年のみχ^2検定により5%水準で有意差が確認されたが、それ以外の年度では有意差は確認されなかった。 ・すでに卒業している2011年～2013年の入学者合計では、入試面接評価と6年生総合試験の成績に有意な関連はみられず（χ^2検定による）、年度別にみても、いずれの年度でも有意差は確認されなかった。 ・すでに卒業している2011年～2013年の入学者の面接評価と医師国家試験の結果との関連をみると、「ストレートで受験して合格」・「ストレートで不合格」・「ストレートで国試を受験せず」の割合は、面接評価との間において有意な関連はみられなかった（χ^2検定による）。これは年度別でも同じで、有意差は確認されなかった。ただし、サンプルサイズが小さいため確かな判断はできないものの、入試面接での評価が高い順に医師国家試験の合格率も高いことから、この傾向が確かなものなのか否かは引き続き検証が必要である。 <p>【2019年度からの課題に対して】 課題：医学部入学試験ごとの入学後の成績分析については今後も継続してゆく。各ポリシーの定期的な見直しについても、アセスメントポリシーを基にした点検と評価と併せて「教育戦略会議」および「研究戦略会議」、「教学点検・評価委員会」において検証・見直しを実施してゆきたい。 取組み：入試面接結果とその後…国試とのつながりについては、医師国家試験の観点から、医学教育センター長よりIR室へ分析依頼されたが、医学部入試実務委員会とも連携し、従来のGPAによる分析以外の検証ができた。</p> <p>課題： ・1年生で入学して早々に休学してしまう学生が増えている。休学している学生がどの入試形態で合格したのかというデータも開示してほしい。 ・大学を辞めてしまって他大学に行く学生が多いということに関しては、他大学への再受験を考えている人は4月中に申請させるなど本当に入学したい学生が多く入学できるような措置を考えなければならない。 取組み（新たな課題）：入試→入学後を含め「教育」ととらえ、PDCAを確立する必要がある。</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	入試→入学後を含め「教育」ととらえ、今後も入試関連委員会と医学教育センターの連携を深めていかねばならない。
関連資料	資料2-11：2020年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分布 資料2-12：2011-2018年度医学部入試面接評価の検証


卒業時課程レベル

【卒業要件：修得単位数（進級率、休学率、退学率、ストレート率）】

根拠会議	<ul style="list-style-type: none"> ・進級判定のための医学教育センター会議 ・進級判定のための医学部教授会議 																																																																																																
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・5月カリキュラム小委員会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 																																																																																																
評価	<p>2020年度：進級要件、実習要件、卒業要件を満たさなかった学生数</p> <p style="text-align: center;">平成27～令和2年度原級留置者数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>原級留置</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和1年度</th> <th>令和2年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>第2学年生</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>第3学年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>第4学年生</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>第5学年生</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>第6学年生</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>40</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>146</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">平成27～令和2年度進級率</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和1年度</th> <th>令和2年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在籍数合計</td> <td>678</td> <td>691</td> <td>680</td> <td>683</td> <td>683</td> <td>692</td> <td>4107</td> </tr> <tr> <td>進級者数</td> <td>653</td> <td>677</td> <td>640</td> <td>657</td> <td>663</td> <td>671</td> <td>3961</td> </tr> <tr> <td>進級率</td> <td>96.3%</td> <td>98.0%</td> <td>94.1%</td> <td>96.2%</td> <td>97.1%</td> <td>97.0%</td> <td>96.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【2020年度取組み】 各学年カリキュラム小委員会、カリキュラム評価委員会ともに例年と比較して、特段の差異は見られず「全学</p>	原級留置	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計	第1学年生	1	1	5	4	6	3	20	第2学年生	4	6	6	2	2	4	24	第3学年生	1	1	7	7	6	4	26	第4学年生	6	1	5	1	1	4	18	第5学年生	5	3	7	5	1	0	21	第6学年生	8	2	10	7	4	6	37	合計	25	14	40	26	20	21	146		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計	在籍数合計	678	691	680	683	683	692	4107	進級者数	653	677	640	657	663	671	3961	進級率	96.3%	98.0%	94.1%	96.2%	97.1%	97.0%	96.4%
原級留置	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計																																																																																										
第1学年生	1	1	5	4	6	3	20																																																																																										
第2学年生	4	6	6	2	2	4	24																																																																																										
第3学年生	1	1	7	7	6	4	26																																																																																										
第4学年生	6	1	5	1	1	4	18																																																																																										
第5学年生	5	3	7	5	1	0	21																																																																																										
第6学年生	8	2	10	7	4	6	37																																																																																										
合計	25	14	40	26	20	21	146																																																																																										
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	合計																																																																																										
在籍数合計	678	691	680	683	683	692	4107																																																																																										
進級者数	653	677	640	657	663	671	3961																																																																																										
進級率	96.3%	98.0%	94.1%	96.2%	97.1%	97.0%	96.4%																																																																																										

	<p>年通しても適正な数字と言える」とのことであった。カリキュラム評価委員会の外部委員より「5→6年の進級判定時に甘くした学生は、結局卒業判定で原級留置となる。やはり5～6年でそれほど学力が変動するわけではないので、5年の進級判定で厳しくせねばならない」旨意見が出された。</p> <p>【2019年度からの課題に対して】</p> <p>課題： 2019年度第6学年原級留置についてもすでに学修支援を開始しているが、グループ学習を身につけさせること、医師国家試験において必要とされる総合的な臨床推論能力の未熟さを再確認させることが必要である。また2020年度からは、副教育センター長が1～5年の学習支援も担うことになり、各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に施行し今後も成績伸び悩みの学生の早期発見をめざす。</p> <p>取組み： ・2020年度からは、副教育センター長が1～5年の学習支援も担うことになり、各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に施行、医学教育センター会議にて継続報告している。 ・6年生についてはすでに2018年度からフォロー開始しているが、2019年12月原級留置生については、 ① 学修方法の改善を考えてもらい、翌週発表しあう形式 ② 必修問題QB1300問を100問×13回に分けて、4人（駒澤も同席）で勉強、学修における内科の方法を重視 ③ 登校禁止期間3か月は週1回ZOOMで面談 ④ 6月マッチング対策・相談、保護者との関係、進路相談 ⑤ その後は卒業試験①、②、総合試験、6大学ごとの精神支援に力を入れた。このことを通じて、 ・教員は自身が医学生の時とは環境が異なることを理解し支援することが必要 ・定期面談だけでなく、「共に勉強することで学習者へダイレクトな指導」ができた ・何度も何度も面談することで信頼関係が構築され学修姿勢や方略が変化する ・マッチング支援【面接訓練】などのコミュニケーションが精神支援に役立ったという考察も得られた。 2020年度にも6年生は4名の原級留置者が出たが、原級留置決定後すぐの介入が効果的であるため、すでに学修フォローとカウンセリングが開始されている。</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	原級留置者数と進級率については継続したモニタリングが必要である。また原級留置決定後は、直後からの介入と、継続した面談、フォローを維持する。
関連資料	資料2-1：原級留置生推移・進級率

【資格取得：国家試験合格率】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・2月国家試験を終えて懇談会 ・5月国家試験不合格者近況報告会 ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 ・7月カリキュラム委員会
評価	 <p>【2020年度取り組み】</p> <p>■「国家試験対策」講義 コロナ禍で、予定していた前期の「国家試験対策」を実施することができず、 ① 本学病院専門医からみた解説を発信 ② 4月からメジャー科目の自主学習を奨励（循環器→呼吸器→神経→消化器→肝胆膵など定期的に確認テストを実施） などオンデマンド形式で実施することとなった。 後期も、遠隔や教室分散をしながらの対策講義を進め、模擬試験についても教室分散で実施した。</p> <p>■6年生メンターについて 1回目：2019年度卒業判定及び進級判定を受けて 2回目：卒業試験1・2結果を受けて 3回目：総合試験結果を受けて 4回目：2020年度卒業判定を受けて</p> <p>■115回医師国家試験後 2021.2.10 国家試験を終えて懇談会実施、受験を終えての学生からの感想を聞いた。 2021.5.10 国家試験不合格者を集めて、近況報告会を開いた。不安事項として、今後のマッチング試験等があげられた。本学からは、勉強部屋の貸し出しや模擬試験、教材の提供などを提案した。その他、今後の勉強ポイントなども教員からアドバイスされた。</p> <p>■115回医師国家試験結果（IR室分析） 第115回国試の結果について、IR室分析は下記のとおりである。</p>

	<p>不合格者が6年生4試験の下位30%に集中していることから、各試験の成績（総合得点、必修得点、一般・臨床得点）と合否の関係を分析。必修、一般・臨床の問題による違いは確認されず、総合試験ならびに共通試験の総得点の成績が悪い（65%未満）と不合格になる傾向以外は、特徴は掴めなかった。</p> <p>また、入試区分と原級留置について調べてみたが、入試区分は関係なく、原級留置経験者が6割の国試不合格率という結果になった。したがって、各種試験の傾向が過去と変わらないのであれば、本学の第115回国試本学の国試結果が振るわなかったのは、原級留置経験者が例年よりも多く在籍したことによるものと考えるのが妥当ではないかと思われる。</p> <p>6月カリキュラム評価委員会において、外部委員より本資料に関して「大学としては、4試験の得点率で70%とっているのに国試不合格者が出てしまったのが痛手である。その層のフォローについてはどう考えておられるか。」という質問が出され、医学教育センター長より、「国試終了後に受験者の意見交換会を実施した。そこで卒業留保になった学生はそのあと頑張ったが、ギリギリ留保にならなかった学生は一連の試験終了後に気が抜けてしまったと言っていた。留保にならなかったけれども、危うい学生には自分の立ち位置をしっかりと説明しなければならないと思っている」と回答した。また、別の委員からも、2017-20年度CBTと共通卒試の相関分析資料について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このデータのR値を見ても、成績下層部は頑張って5.6年生で上に行ける人も若干いるが、多くはそのまま上がれないパターンであるということがわかる。ただし、これは良医になるかならないかは別の問題といえる。5・6年生は知識を身に着ける時間なのではなく、3・4年生で身に着けた知識でもって患者と向き合う時間である（7月カリキュラム委員会でも同様の意見が出された）。 ・教育センター会議で、115回国家試験結果から5.6年生の教育内容が良くないのではないか…という意見が出たという意見があり、それについて、カリキュラム評価委員会外部委員からは「おそらく臨床の先生方は、国家試験に合格するための授業ではなく、患者とのコミュニケーション含め、良医を育てる教育をされているのではないか。合格することが目的なのか、そこに現場の先生方との乖離が生まれているように思う」との意見が出された。 <p>【2019年度からの課題に対して】</p> <p>課題： 114回で特に本学学生の正答率が低かった問題について、該当教室教員に結果をフィードバックするとともに、2020年度から遠隔コンテンツを配信し、専門医からみた解説を実施する</p> <p>取り組み： 下記の通り、コロナ禍で、予定していた前期の「国家試験対策」を実施することができず、専門医から見た解説を定期的に学生に提供することで国家試験対策を維持できた。</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業保留にはならず卒業が決まったが、成績がそれほど振るわなかった学生には注意喚起する。 ・「5・6年生は知識を身に着ける時間なのではなく、3・4年生で身に着けた知識でもって患者と向き合う時間である」との意見から、3.4年生からの底上げが必要である。
関連資料	<p>資料2-13：医師国家試験合格率推移</p> <p>資料2-14：第115回医師国家試験と4試験合計下位30%層受験者の各試験と国試合否の関係</p>

【GPA（通算）】

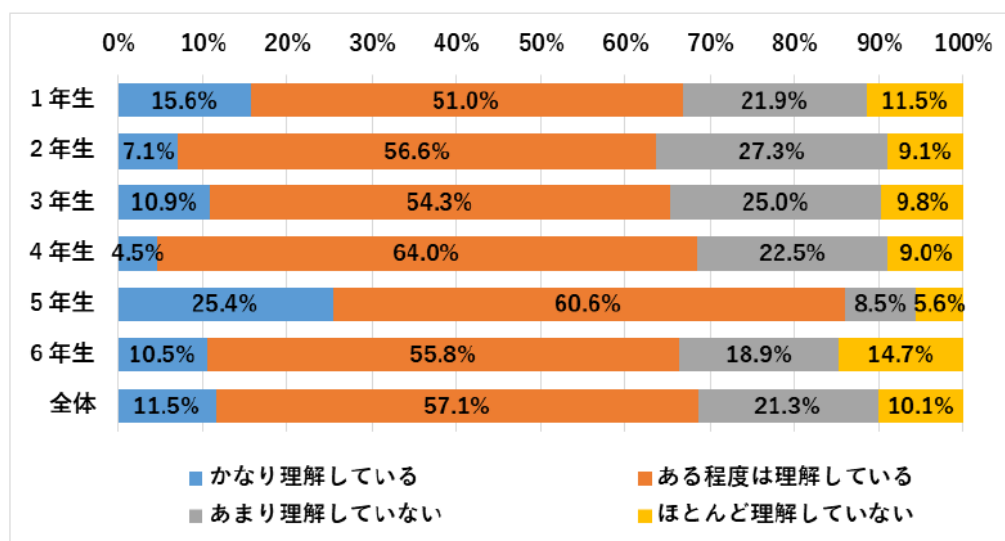
根拠会議	
検討会議	
評価	
次年度改善課題（改善すべき事項）	<p>GPA（通算）を今後確認しなければならない。</p> <p>【2020年度取り組み】 単年度ごとのGP、GPAについては、5.6年小委員会でも振り返りはしているが、通算GPAについては振り返りを行っていない。</p>
関連資料	

【学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査）】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・6月医学教育センター会議 ・6月カリキュラム評価委員会 ・7月カリキュラム委員会 														
評価	<p>■学勢調査回答率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>81%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【2020年度結果検証】 6月医学教育センター会議において、学習者から見た学修成果について検証がなされた。本件は、毎年、学勢調査の一環として実施し、IR室によって分析され、大学のホームページにも公開されているものである。前年度と比較して分析、検証している。</p> <p>■「建学の精神」の認知 昨年度と比べると「建学の精神」を理解する割合が高くなっている。これは、年度初めのオリエンテーショ</p>	学年	%	1年	82%	2年	90%	3年	77%	4年	97%	5年	65%	6年	81%
学年	%														
1年	82%														
2年	90%														
3年	77%														
4年	97%														
5年	65%														
6年	81%														

ン、シラバスにおいても周知徹底したことで、認知度が上がったものと思われる。

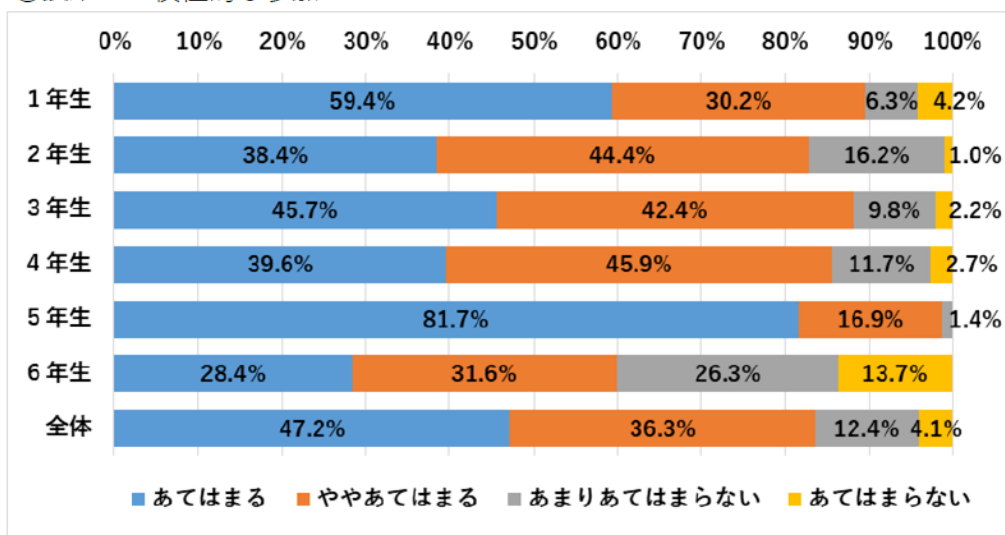
① 「建学の精神」の認知



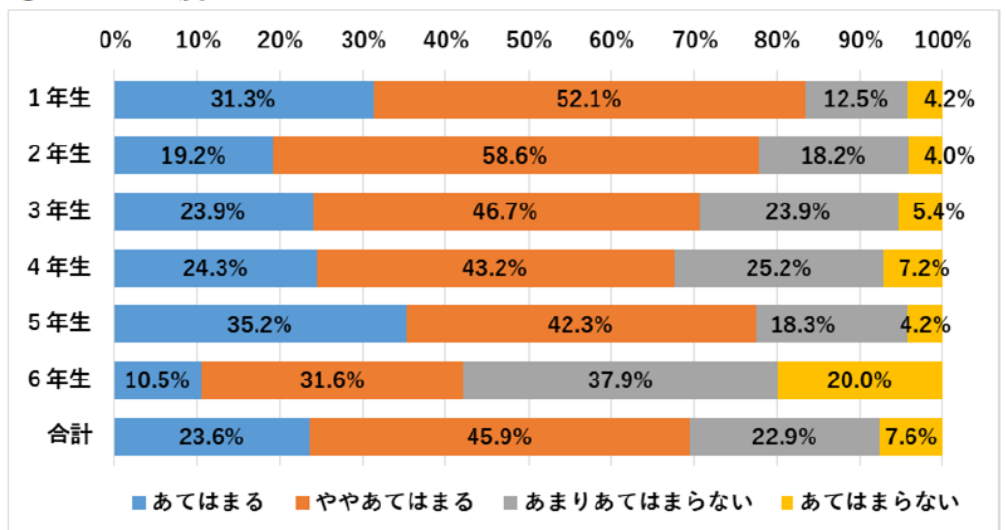
■2020年度カリキュラムに関して

6年生の授業への積極的な参加の割合が2019年度よりも低かった。これは、新型コロナウイルス感染症対策のため年度前半に登校できない期間があり、実習もできなかったため、他の学年はオンライン授業や年度後半に登校期間に授業参加の機会が多かったためだと考えられる。2021年度は、感染対策を十分に講じつつ、実習を継続した（PCR検査、大学病院への振替など工夫をしている）。

①授業への積極的な参加



②授業の満足度



■臨床実習での全体的な満足度

臨床実習全体に対する満足度では、比較的満足しているとする学生が5年生、6年生ともに約7割で、昨年度、比較的満足しているという回答が8割を超えていたことと比べると、2020年度の満足度はやや低くなっている。これらの結果から、新型コロナウイルスのために実習が中断したり、制限されたりした期間があったことで実習時間と満足度にその影響があったと考えられる。

	<p>⑦ 臨床実習での全体的な満足度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>満足している</th> <th>どちらかといえば、満足している</th> <th>どちらかといえば、不満である</th> <th>不満である</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年生</td> <td>28.8%</td> <td>45.5%</td> <td>18.2%</td> <td>7.6%</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>21.7%</td> <td>47.0%</td> <td>22.9%</td> <td>8.4%</td> </tr> <tr> <td>5・6年全体</td> <td>24.8%</td> <td>46.3%</td> <td>20.8%</td> <td>8.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【2019年度からの課題に対して】 課題：「医療の社会性」と「医療の国際性」 取組み（継続課題）： 医療の国際性と社会性の部分については、区別して問うべきではないという意見が以前から出されており、ディプロマポリシー見直しが必要。 6月のカリキュラム評価委員会でも、「卒後アンケート」に絡めて、外部委員から「医療の国際性については、パーセンテージが低い＝養われていないというわけではなく、定義に少し無理があるのかもしれない。医療の社会性と結び付けて考えていったほうが良いかもしれない」という意見が出た。</p>	学年	満足している	どちらかといえば、満足している	どちらかといえば、不満である	不満である	5年生	28.8%	45.5%	18.2%	7.6%	6年生	21.7%	47.0%	22.9%	8.4%	5・6年全体	24.8%	46.3%	20.8%	8.1%
学年	満足している	どちらかといえば、満足している	どちらかといえば、不満である	不満である																	
5年生	28.8%	45.5%	18.2%	7.6%																	
6年生	21.7%	47.0%	22.9%	8.4%																	
5・6年全体	24.8%	46.3%	20.8%	8.1%																	
次年度改善課題（改善すべき事項）	医療の国際性と社会性のところについては、区別せず一緒にすべきではないかという意見が以前から出されており、ディプロマポリシー見直しが必要。																				
関連資料	資料2-4：2020 学勢調査医学部学修項目																				

【入試制度別成績、態度】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・1月医学教育センター会議 ・1月医学部教授会 ・2月医学部入試実務委員会
評価	<p>【2011-2018年度医学部入試面接評価の検証】（1月教育センター会議、2月医学部入試実務委員会） 2020年度は入試の面接と入学後の成績についてIR室にて分析、医学教育センターで検証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後年数ごとの面接評価の割合をみると、2011年～2018年の入学者合計では卒業年数（現役生と浪人生）による差はみられない。 ・性別ごとの面接評価の割合をみるとχ^2検定では「2011年度」のみが1%水準で有意差が確認されるものの、2012年度以降は有意差が確認されない。これは、年度別では性別による有意差がほぼ認められないことから、8年間の合計では度数の大きさによって統計的に有意差が認められるのであり、女性の評価がやや高い傾向はあるが、性別によって明確に評価の偏りがあるとまでは言えない。 ・入試面接評価と入学後との関連を確認するため、1年生終了時の成績（席次）との関連をみると、2011年～2018年の入学者合計では入試面接評価と1年生成績には有意な関連はみられない（χ^2検定による）。年度別にみても、2011年のみχ^2検定により5%水準で有意差が確認されたが、それ以外の年度では有意差は確認されなかった。 ・すでに卒業している2011年～2013年の入学者合計では、入試面接評価と6年生総合試験の成績に有意な関連はみられず（χ^2検定による）、年度別にみても、いずれの年度でも有意差は確認されなかった。 ・すでに卒業している2011年～2013年の入学者の面接評価と医師国家試験の結果との関連をみてみると、「ストレートで受験して合格」・「ストレートで不合格」・「ストレートで国試を受験せず」の割合は、面接評価との間において有意な関連はみられなかった（χ^2検定による）。これは年度別でも同じで、有意差は確認されなかった。ただし、サンプルサイズが小さいため確かな判断はできないものの、入試面接での評価が高い順に医師国家試験の合格率も高いことから、この傾向が確かなものなのか否かは引き続き検証が必要である。 <p>【2019年度からの課題に対して】 課題：医学部入学試験ごとの入学後の成績分析については今後も継続してゆく。各ポリシーの定期的な見直しについても、アセスメント・ポリシー（学修成果の把握に関する方針）を基にした点検と評価と併せて「教育戦略会議」および「研究戦略会議」、「教学点検・評価委員会」において検証・見直しを実施してゆきたい。 取組み：入試面接結果とその後…国試とのつながりについては、医師国家試験の観点から、医学教育センター長よりIR室へ分析依頼されたが、医学部入試実務委員会とも連携し、従来のGPAによる分析以外の検証ができた。</p> <p>課題： ・1年生で入学して早々に休学してしまう学生が増えている。休学している学生がどの入試形態で合格したのかというデータも開示してほしい。 ・大学を辞めてしまっても他大学に行く学生が多いということに関しては、他大学への再受験を考えている人は4月中に申請させるなど本当に入学したい学生が多く入学できるような措置を考えなければならない。</p> <p>取組み（新たな課題）：入試→入学後を含め「教育」ととらえ、PDCAを確立する必要がある。</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	入試→入学後を含め「教育」ととらえ、今後も入試関連委員会と医学教育センターの連携を深めていかねばならない。
関連資料	資料2-12：2011-2018年度医学部入試面接評価の検証

【卒業生アンケート】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・6月医学教育センター会議 ・5月医学部教授会 ・6月カリキュラム評価委員会
------	--

評価
2020年度アンケート実施対象：
研修2年目修了生（2018年度卒業生全員）103名、本学病院研修1年目終了生29名の計132名に調査。77名が回答（58.3%）。

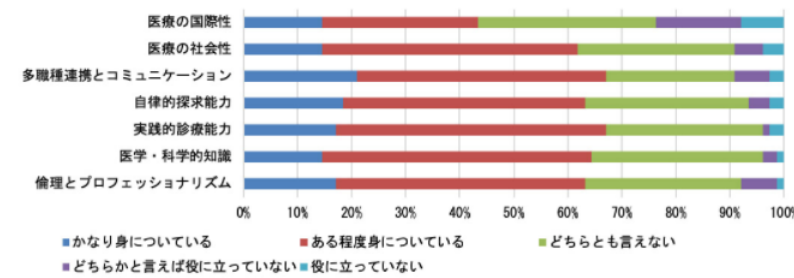
⇒「1.ある」、「2.少しある」の方はその授業名と現在の仕事にどう役立っているかを教えてください(複数回答可)。

授業名	どう役立っているか
解剖学(組織学)	<ul style="list-style-type: none"> ・手術時に役立っている ・手術の時やCTMRIを見る時に解剖の知識が必要
PBL講義	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床を行ううえでの知識として ・疾患治療の考え方などに役立っている ・学会発表時に役立っている ・実臨床に役立つ知識を少しずつ学ぶことができた ・自分の将来の決定に役立った ・腎臓内科の輪流についての授業は輪流の選択時に役立っている ・免疫学授業は実際の臨床で考える時に基本がわかる部分があり役立っている ・感染症の授業は入院患者に感染症が多く役立っている
研究の楽しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のモチベーションにつながった
共用試験OSCE	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の診察に役立った
特別演習「症候論」	<ul style="list-style-type: none"> ・救急外来の鑑別疾患想起に非常に役に立っている。講義プリントは現在も参考にしている ・系統的にコンディショニングを中心に講義していただき、とても楽しかった ・より臨床に基づいていた ・研修医になっても同様の検討会を行っており勉強になっている
クリニカル・クラークシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の専攻領域に興味を持つことができたこと自体が役に立った ・内科診察の基本やカルテ記載法を学べた ・放射線科で造影を最新設備で学べた。レントゲンの診方が勉強になった ・患者さんとの接し方は勉強になった。だが正直クリクラ期間他大学と比べても短く、経験値としても他大学にかなり劣っていると医師になってから実感した ・患者様との接し方が一番大事、その良い機会になった ・形成外科での縫合手技など役立っている
選択臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> ・外病院の放射線科で学ぶことができ、救急で画像が苦でなくなった ・入職後、スムーズに業務を行うことができた

II. 大阪医科大学医学部ディプロマポリシーについてお尋ねします(学習成果到達度チェック)。

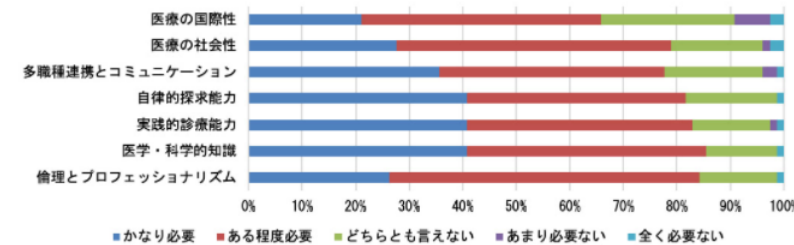
① 本学医学部の教育を受けて、あなたは現在、次のような能力や態度が身についていると思いますか。

現在身につけている能力や態度（ディプロマポリシーより）



② 次のような能力や態度のうち、現在のキャリアに必要なと思われる能力や態度について。

現在のキャリアに必要なと思われる能力や態度（ディプロマポリシーより）



【2020年度結果検証】（6月医学教育センター会議、医学部教授会、6月医学部カリキュラム評価委員会）

■カリキュラムへの満足度

1～4年とも「満足している、どちらかと言えば満足しているが8割程度いる。5・6年の患者と接した時間は「短い、物足りない」と答えた卒業生が6割弱。

■ディプロマポリシー

ディプロマポリシーに掲げている要素がどれだけ身についたかについては医療の国際性が例年通り低くなっているが、他もいずれの項目も昨年度から大きな差はなかった。

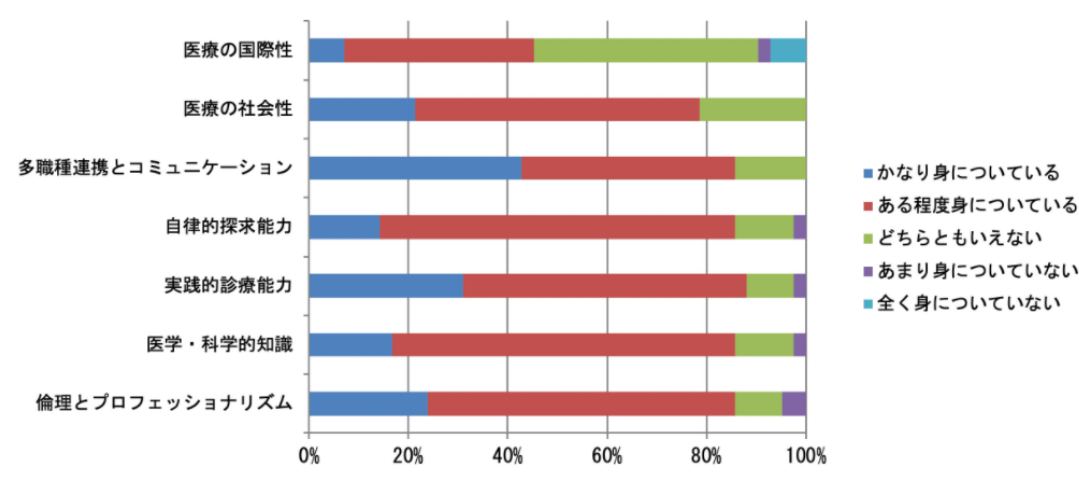
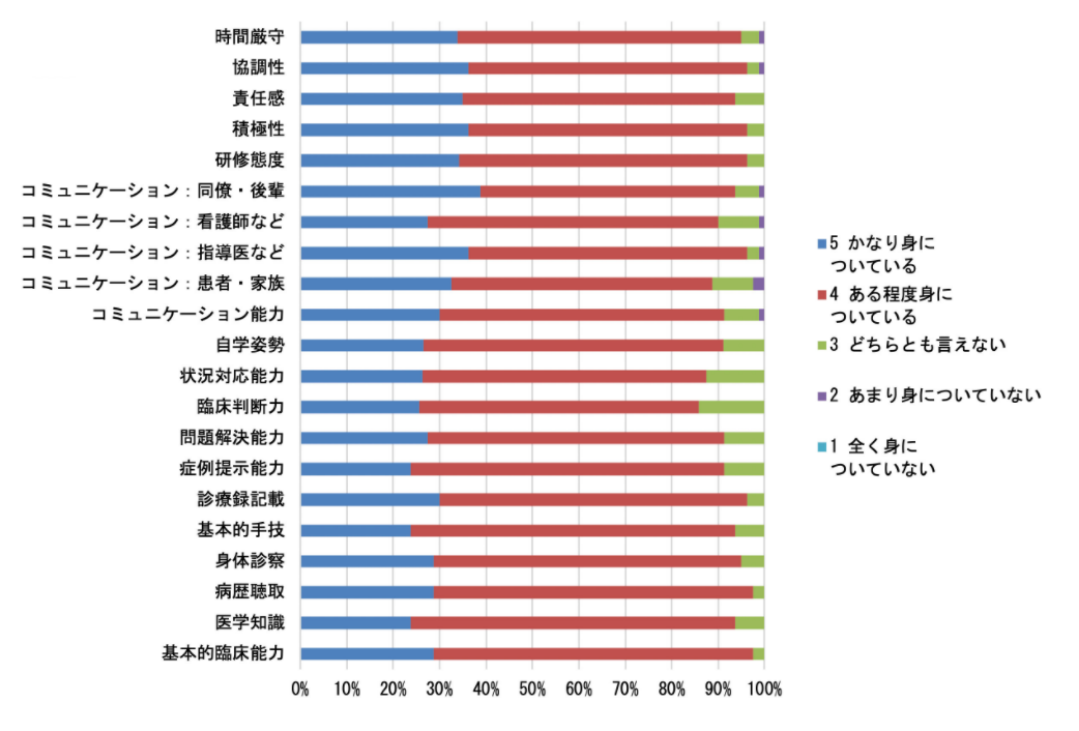
医療の国際性と社会性の部分については、区別して問うべきではないという意見が以前から出されており、ディプロマポリシー見直しも必要である。6月のカリキュラム評価委員会でも、「医療の国際性については、パーセンテージが低い＝養われていないというわけではなく、定義に少し無理があるのかもしれない。医療の社会性と結び付けて考えていったほうが良いかもしれない。」という意見が外部委員より出された。

■現在役立っている授業

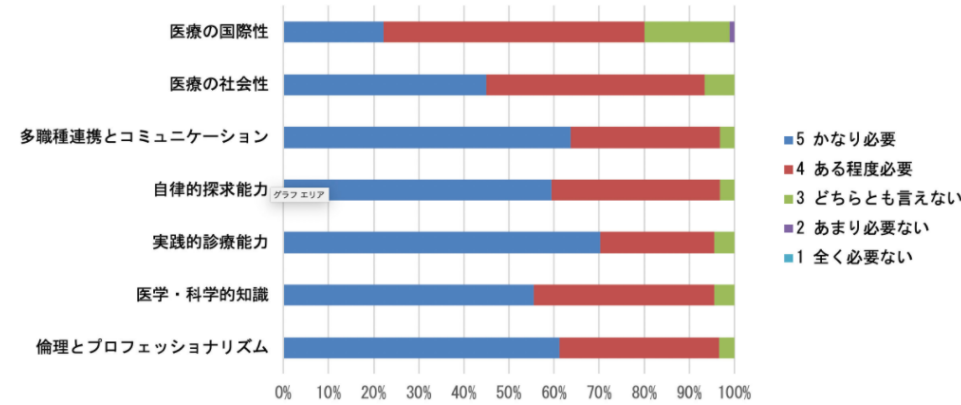
「症候学」という意見が出たことについて、6月のカリキュラム評価委員会で、科目担当者より「卒業生に評価してもらえて非常にうれしい。症候論は6年ほどずっと続けているが、グループでディスカッションし、プレゼンするという参加型演習である。一方的な講義ではなく、やはり学生が主体的にとりかかるといことは非常に大切なポイントである」旨意見が出された。

	<p>クリニカル・クラークシップは、現在役立っている授業として意見が多かった一方、「正直クリクラ期間は他大学と比べても短く、経験値としても他大学にかなり劣っていると医師になってから実感した」という意見が上がった。どれだけの人がこのように思っているのか、またどの点においてそう思ったのか検証が必要である旨、6月カリキュラム評価委員会外部委員より指摘が上がった。</p> <p>【2019年度からの課題に対して】 課題：2019年度調査について、アンケートの「満足度」については数字でたずねる形式を取り入れる方が良いのではないかという指摘があり（医学教育センター会議）2020年度アンケートで修正を反映した。 取組み：2020年度アンケート実施時点で修正済。</p> <p>【2020年度私立大学等改革総合支援事業からの課題に対して】 卒業後アンケート調査結果等に基づく教育改善の検討を、学内の委員会、会議体等で実施することを基準時点以内に機関決定し、教育活動の改善に反映させる仕組みを構築すること。 取組み： 7月医学教育センター会議で、「大阪医科薬科大学医学教育センター規程」の見直しを行い、次の文面を規程に加えることになった。 (7)教育に関する自己点検・自己評価（学生、教職員、卒業生および卒業生研修先・勤務先等への調査に基づくものを含む）</p>
次年度改善課題（改善すべき事項）	医療の国際性と社会性のところについては、区別せず一緒にすべきではないかという意見が以前から出されており、ディプロマポリシー見直しが必要。
関連資料	資料2-14：卒業生へのアンケート調査結果について【HP公開済】 https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/of2vmg00000095fn.html

【卒業生研修先へのアンケート調査】

検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・6月医学教育センター会議 ・6月医学部教授会 ・6月カリキュラム評価委員会
評価	<p>2020年度アンケート実施対象：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪医科大学医学部2017年度卒業生研修先機関60機関 ・大阪医科大学医学部2020年度選択臨床実習実施機関83機関 <p>問1 本学卒業生の医学部「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」の各項目における能力について</p>  <p>問2 本学卒業生の知識・技能・態度別の評価について</p> 

問3 医学部「ディプロマポリシー(学位授与の方針)」の各項目で、医師となる者が身に付けておくべきだと思われるものについて(研修先に加え、本学臨床実習協力機関にもご意見いただきました)



【2020年度結果検証】(6月医学教育センター会議、医学部教授会、6月医学部カリキュラム評価委員会)

■ディプロマポリシー

卒業生がディプロマポリシーに掲げている要素がどれだけ身についたかについて、国際性以外は8割程度で、ある程度身につけている、かなり身につけているとなっている。

ディプロマポリシーに掲げている要素のうち医師として身に付けておくべきものについては、選択臨床実習受入れ機関(83機関うち40機関)の先生方にもご協力いただいているが、こちらも国際性以外は9割でかなり必要、ある程度必要となっている。

■卒業生の知識技能態度

ある程度身につけている、かなり身につけているが9割近くとなっている。

【2019年度の課題に対して】

卒業生アンケート同様、評価のルーブリックを整備する必要がある。

取組み:

2020年度は2019年度と経年比較できるよう内容を継続とした。2020年度研修1年目生よりエポックを用いた評価に変更されるため、それを機に本アンケート内容も精査する必要がある。

【2020年度私立大学等改革総合支援事業からの課題に対して】

卒業後アンケート調査結果等に基づく教育改善の検討を、学内の委員会、会議体等で実施することを基準時点以内に機関決定し、教育活動の改善に反映させる仕組みを構築すること。

取組み:

7月医学教育センター会議で、「大阪医科薬科大学医学教育センター規程」の見直しを行い、次の文面を規程に加えることになった。

(7)教育に関する自己点検・自己評価(学生、教職員、卒業生および卒業生研修先・勤務先等への調査に基づくものを含む)

次年度改善課題(改善すべき事項)

2020年度研修1年目生よりエポックを用いた評価に変更される。アンケート内容もそれに対応したものに修正する必要がある。

関連資料

資料2-15: 卒業生研修先へのアンケート調査結果について【HP公開済】
https://www.ompu.ac.jp/education/f_med/outcomes/of2vmg000000citm.html